

令和 6 年度

国立大学法人兵庫教育大学大学院 連合学校教育学研究科概要

後期 3 年のみの博士課程



兵庫教育大学



上越教育大学



岐阜大学



SHIGA UNIVERSITY

滋賀大学



岡山大学



鳴門教育大学

*The Joint Graduate School (Ph.D.Program) in Science of School Education
Hyogo University of Teacher Education*

目 次

■ 設置の趣旨・目的	… 3
■ 教育研究上の特色	… 4
■ 専攻・連合講座の内容	… 6
■ 主指導教員となり得る者の教育研究分野	… 10
■ 授業科目	… 18
■ 修了要件及び学位	… 20
■ 学生数等	… 21
■ 研究科の構成	… 22
■ 3年間の履修プロセス	… 24
■ 沿革	… 26
■ 管理運営	… 28
■ 役職員	… 30
■ 構成大学の所在地及び位置図	… 31



兵庫教育大学



上越教育大学



岐阜大学



滋賀大学



岡山大学



鳴門教育大学

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

連合学校教育学研究科（博士課程）は、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格して、教育実践学の研究を自立的、協働的に遂行する資質・能力を有することが認められた者に博士（学校教育学）の学位を授与します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

第1 教育課程の編成

連合学校教育学研究科（博士課程）は、これまでの教育科学及び教科専門科学の各専門分野の枠にとらわれない各専門領域を有機的に統合した授業科目を次の区分により編成し実施します。

①総合共通科目

教育実践学の構築に関わる教育研究の遂行にあたって、教育課題を的確に把握し、課題解決の方略を提示することのできる総合的な資質・能力の育成を主要な目的とします。

②専門科目

個別の研究課題について、多様な専門的視点から総合的に検討し、その課題解決能力を修得することを目的とします。

③課題研究

博士論文への発展を期待する上で必要不可欠な演習として、学生の研究課題に即した知識・技能を修得し、研究能力を培うことを目的とします。

第2 教育内容・方法

本研究科は、各専攻毎に、以下の内容・方法による教育を実施します。

【学校教育実践学専攻】

学校教育実践学専攻では、各連合講座を基盤にして学校教育諸活動の実践的な理論と方法の開発及び学校教育臨床の体系と方法論の確立を目指す。現実の生きた学校という教育環境とそこから生じる教育事象や日々の教育活動そのものを研究の対象とし、幼児・児童・生徒の健全な人格形成という視点から実践の方向や発展を示す開発研究を総合的に行う。

【先端課題実践開発専攻】

先端課題実践開発専攻では、学校教育に関する学術研究の成果と学校現場における質の高い教育実践に裏付けられた実践知とを融合することによって、学校における先端的な諸課題の解決に向けた取組を科学的な基盤の上で展開する実践的プログラムの開発研究を行う。

【教科教育実践学専攻】

教科教育実践学専攻では、各連合講座の基本概念を基盤にして教科教育学、教科専門諸科学の実践に関わる原論、内容論、方法論による教育研究を目指す。基礎的原論では、教科の存立根拠や目的を追求し、内容論では、教育実践の視点において教科専門諸科学を統合して教科内容の基礎を固め、方法論では、幼児・児童・生徒の認識や行動の発達の側面を追求しながら教育実践を推進し、さらに、この三者を統合して次世代を先導する創造的な教育課程（実践的原論）を構築する。このように、幼児・児童・生徒の健全な人間形成という視点から教科に関わる実践の方向や発展を示す研究を総合的に行う。

第3 学修成果の評価

学修成果の評価は、本研究科で定める成績評価に関する基準に基づき、授業科目の目標の達成について、評価対象項目（参加度、レポート、討議、フィールドワークなど）毎の評価観点による評価及びパフォーマンス評価により総合的に評価を行います。

学位論文は、本研究科の定める審査基準に基づき、本研究科で選出する審査委員により審査及び最終試験を実施し合否判定を行います。なお、学位論文提出の6ヶ月前までに本研究科が実施する博士候補認定試験に合格していることを条件とします。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

連合学校教育学研究科（博士課程）は、兵庫教育大学を基幹大学とし、上越教育大学、岐阜大学、滋賀大学、岡山大学及び鳴門教育大学の6大学が連合して構成している後期3年のみの博士課程であり、実践に根ざした学校教育学を独自の学問分野として確立し、今日のエデュケーション課題の解決と学校教育の質的改善・改革に貢献することを目的とします。

本研究科は、学校教育実践について高度で専門的な研究を行い、学校教育実践学及び教科教育実践学の分野において、自立して研究・実践できる研究者及び専門職教育者を志向する人材を求めます。

入学前に身に付けておくべきこと

- ・研究・実践を遂行するための十分な専門的知識を有すること
- ・研究・実践を遂行するうえで必要な深い理解力・洞察力を有すること
- ・自らの問題意識に基づき、学術的観点をもって主体的・積極的に研究を遂行する能力を有すること

入学者選抜の基本方針

連合学校教育学研究科（博士課程）のアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に基づき、研究分野に関する専門的知識や理解力・洞察力などを備え、研究を遂行する能力を有しているかを総合的に判断できる試験及び成績証明書の審査の結果を総合して入学者を選抜します。

教育実践学コンピテンシー

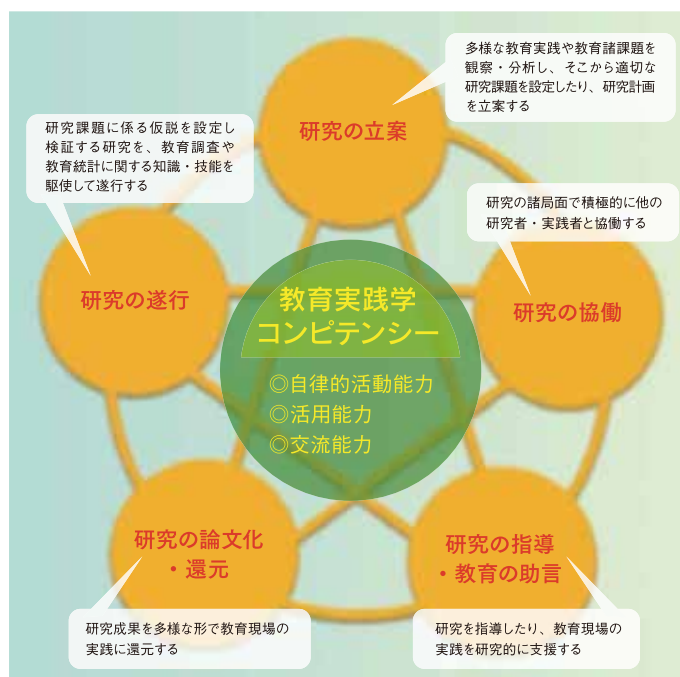
基本的な考え方

- ・本学が目指す教育実践学コンピテンシーとは、教育実践学に関する研究を行い、教育（指導）することのできるコンピテンシーを指します。
- ・教育実践学とは、学校教育に係る実践を対象に、理論と実践の融合を目指す教育学であり、本研究科は次の2領域3専攻で構成されます。

領 域	専 攻
1 学校教育実践	① 学校教育実践学専攻
	② 先端課題実践開発専攻
2 教科教育実践	③ 教科教育実践学専攻

本学で培われる教育実践学コンピテンシー

定義：教育実践に関する研究課題を見出し、仮説・検証を通して理論の構築を図ると共に新たな実践を創造・開発する活動を協働的に遂行し、指導することのできる能力・資質



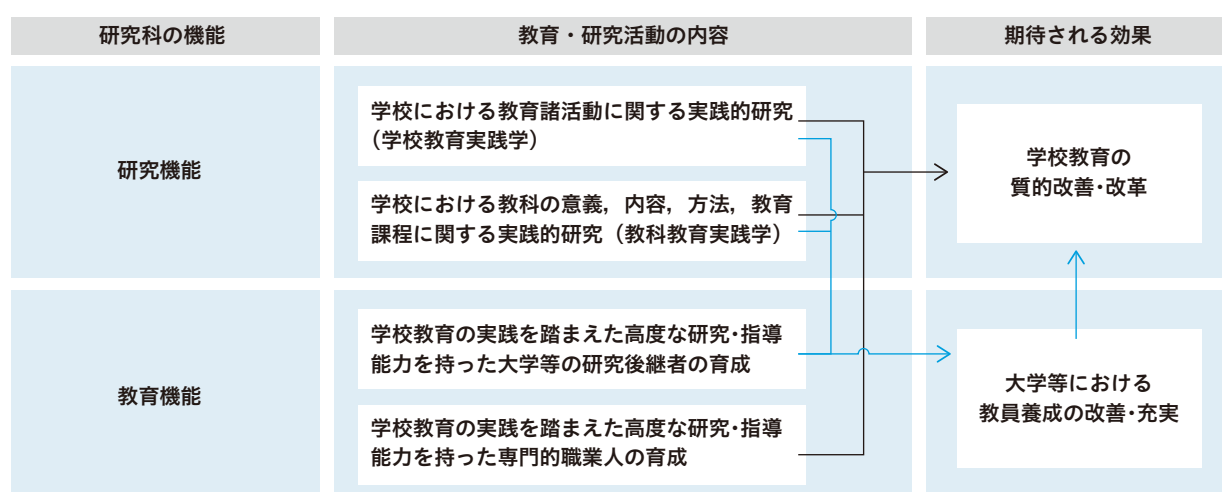
設置の趣旨・目的

近年の科学技術の高度化，社会の成熟化，児童・生徒を取り巻く教育環境の著しい変化に伴い，学校教育の現実において発生する課題は，多岐にわたり複雑化しており，このような状況の中で，教員養成大学には，21 世紀の学校教育を洞察し，将来を見通した学校教育の質的改善・改革への寄与が強く求められている。

また，急速な科学技術の進歩と社会の多様化の進行に対処するため，学校教育を担う教員には，学校教育の在り方に関する識見を持ち，個々の地域や現場での条件にも即応した弾力性のある教育実践を遂行し得る資質と総合的な力量の一層の向上が強く求められている。

このような学校教育を取り巻く諸問題を背景として，兵庫教育大学，上越教育大学，岐阜大学，滋賀大学，岡山大学及び鳴門教育大学の6大学が連合して後期3年のみの博士課程を設置し，以下の点を通して教員養成の改善・充実に資することにより，学校教育の質的改善・改革に貢献しようとするものである。

- (1) 総合的・学際的な視点から学校における教育諸活動及び教科の教育活動に関する実践的研究を通して，今日の教育課題の解決に資する，実践に根ざした学校教育学の一層の推進とその方法の確立を図る。
- (2) 上記の研究を通して得られた成果を基に，実践的能力を養う教育プログラムを確立し，教員養成大学等に供給する。
- (3) 学校教育現場の実践的な経験を持ち，実践に根ざした学校教育学を教育研究できる人材を育成し，教員養成大学等に供給する。
- (4) 実践的研究に裏付けられた研究能力を持って指導的役割を果たす専門的職業人を育成し，都道府県教育委員会の教育センター等の各段階における現職研修の充実に指導的役割を果たす人材を供給する。



教育研究上の特色

研究指導体制

本研究科は、研究の中心となる学校教育実践学及び教科教育実践学の特質を考慮して総合的・学際的な視点から研究指導ができるように、1人の学生に対して3人の教員が指導教員となる。(主指導教員1人、副指導教員2人とし副指導教員のうち1人は主指導教員の所属大学と異なる大学の教員とする。)

したがって、学生は主指導教員の所属する大学において研究指導を受けることになるが、同時に連合大学院の利点を生かして他大学に所属する副指導教員の指導を受けることができる。

教育課程

これまでの教育科学、教科教育学及び教科専門科学の各専門分野の枠にとらわれない各専門領域を有機的に統合化した授業科目を次の区分により開設する。

① 総合共通科目	教育実践学の構築に関わる教育研究の遂行にあたって、教育課題を的確に把握し、課題解決の方略を提示することのできる総合的な資質・能力の育成を主要な目的として、本研究科を構成する6大学の教員が共同で開設し、夏期と春期にそれぞれ集中講義により実施する。この総合共通科目は、必修科目として計4単位を履修する。		
	教育実践基礎研究Ⅰ	2単位	教育研究法基礎Ⅰ(研究の進め方) 教育研究法基礎Ⅱ(量的研究法) 教育研究法基礎Ⅲ(質的研究法)
	教育実践基礎研究Ⅱ	2単位	実践研究課題演習Ⅰ(研究課題の探求) 実践研究課題演習Ⅱ(研究の推進)
② 専門科目	個別の研究課題について、多様な専門的視点から総合的に検討し、その課題解決能力を修得させることを目的として開設する。この専門科目は、学生の研究題目に基づき指導教員が作成する教育研究指導計画書に従って計8単位以上を選択履修する。		
③ 課題研究	博士論文への発展を期待する上で必要不可欠な演習として、学生の研究課題に即して開設する。この課題研究は、主指導教員と副指導教員により第1年次から第3年次前期までの5学期間を通して開講し、必修科目として計10単位を履修する。		

フレックスタイム・カリキュラム制度

本研究科では、職業を有する学生又は、在学中に就職した学生に対する教育方法の特例として、主指導教員の指導のもと、夜間その他特定の時間又は時期において授業科目の履修と研究指導を受けることができる「フレックスタイム・カリキュラム制度」を設けている。

この制度は、学生の申請に基づき、総合共通科目を除いた授業科目(専門科目、課題研究)及び学位論文の作成等に対する指導について適用し、指導教員や講義担当教員との調整により土・日・祝日の時間帯や夏期、冬期、春期の休業期間中に集中講義等により履修することができる制度である。

なお、この制度の適用に当たっては、出願の際に制度適用について希望する主指導教員に了承を得ておく必要がある。

[フレックスタイム・カリキュラム制度による履修モデル]

年次		授業科目	単位	履修方法の例	備 考
第 1 年 次	前 期	課題研究	2	主指導演習 各週土曜 副指導演習Ⅰ（指定日曜）	
		〇〇教育基礎特別研究	2	A 教員各週土曜講義 5～7月	
		〇〇教育課程特別研究	2	B 教員集中講義 8月中4日間	
		総合共通科目	2	集中講義	
	後 期	課題研究	2	主指導演習 各週土曜 副指導演習Ⅱ（指定土曜）	〇〇学会誌投稿
		〇〇教材特別研究	2	C 教員集中講義 2月中4日間	〇〇学会誌論文掲載
		総合共通科目	2	集中講義	
第 2 年 次	前 期	課題研究	2	主指導演習 各週土曜 副指導合同演習	博士候補認定試験受験 博士候補認定試験合格
		他専攻の授業科目	2	D 教員集中講義 8月中4日間	
	後 期	課題研究	2	主指導演習 指定日 副指導演習Ⅰ //	学位論文作成着手
				副指導演習Ⅱ //	△△学会誌投稿
第 3 年 次	前 期	課題研究	2	主指導演習 指定日 副指導演習Ⅰ //	△△学会誌論文掲載
				副指導演習Ⅱ //	
	後 期	学位論文公聴会発表・最終試験準備			学位論文完成・提出 公聴会・論文審査 最終試験 修了認定・学位授与
合 計			22	（注）この履修モデルは、3年間の全期間についてフレックスタイム・カリキュラム制度を適用し、その間に修了要件単位数 22 単位を修得し、かつ、学位論文提出要件（学会誌論文掲載 2 編）を充足した場合のものである。	

主指導教員
及び副指導
教員による
学位論文作
成の指導

共同研究プロジェクト

本研究科は、連合大学院の利点を生かし、構成6大学の教員が所属大学、専門領域の枠を越えたプロジェクト型の共同研究を実施している。

この共同研究プロジェクトは、その研究成果を論文、研究集会等により社会に発信する他、学生を積極的に共同研究へ参加させ、研究者としての研究遂行能力の育成を図っている。

[現在実施している共同研究プロジェクト]

- 「教科指導における STEAM 教育の多様性と汎用性に関する国際調査研究」 : 令和4-6年度
- 「多様性を尊重する社会の確立を目指した遺伝学リテラシーからの教育実践研究」 : 令和5-7年度
- 「教育行政・経営学と教育内容・方法学の連携による国際 STEM 教育推進プロジェクト」 : 令和6-8年度

専攻・連合講座の内容

学校教育実践学専攻

学校教育実践学専攻では、各連合講座を基盤にして学校教育諸活動の実践的な理論と方法の開発及び学校教育臨床の体系と方法論の確立を目指す。現実の生きた学校という教育環境とそこから生じる教育事象や日々の教育活動そのものを研究の対象とし、幼児・児童・生徒の健全な人格形成という視点から実践の方向や発展を示す開発研究を総合的に行う。

連合講座	内容
学校教育方法連合講座	本連合講座は、学校教育の学問的体系とその方法論を確立し、学校教育実践の一層の発展に寄与することを目的とする。そのため、現実の生きた学校という教育環境とそこから生じる教育事象や日々の教育活動そのものを研究の対象とする。 本連合講座の基本概念は、「学校教育実践の内容と方法の開発」である。そのため、主な教育研究領域としては、学校教育の本質や教育実践の成立基盤を理念的・歴史的に究明する領域、社会的組織体としての学校に関わる制度や学校経営・学級経営実践活動の在り方を社会的・実証的に究明する領域、教授・学習過程に焦点を当て、児童・生徒の発達及び学習過程を究明し、教育実践改善のための方法論及び技術論の構築を目指す領域、情報化社会に対応する教育システムや教授・学習支援システムの開発を目指す領域等が含まれる。 こうした内容と方法を通して本連合講座で学校教育実践に関する深い識見を備えた者は、学校教育に対する確固たる理念と展望を有する研究者あるいは指導者として活躍することが期待される。
学校教育臨床連合講座	本連合講座は、学校教育臨床の体系と方法論を確立し、幼児・児童・生徒の健全な人格形成という視点から学校教育実践の一層の発展に寄与することを目的とする。 本連合講座の基本概念は、「教育・臨床的発達支援」である。そのため、主な教育研究領域としては、複雑化・多様化する教育病理現象に対処できるように問題行動や精神的不健康の予防・相談の在り方を究明する領域、人間尊重・全人教育を基本に据えた障害児に対する発達支援の問題を教育学的・心理学的・生理・病理学的に究明する領域等が含まれる。 こうした内容と方法を通して本連合講座で学校教育臨床に関する深い識見を備えた者は、学校教育に対する確固たる理念と展望を有する研究者あるいは指導者として活躍することが期待される。

先端課題実践開発専攻

先端課題実践開発専攻では、学校教育に関する学術研究の成果と学校現場における質の高い教育実践に裏付けられた実践知とを融合することによって、学校における先端的な諸課題の解決に向けた取組を科学的な基盤の上で展開する実践的プログラムの開発研究を行う。

連合講座	内容
先端課題実践開発連合講座	本連合講座は、今日の多様かつ新たな諸課題の分析等を行う「先端教育課題総合研究」を始め、「現代教育課題特別研究」など実践的な課題に対応できる科目を設定し、研究指導体制においても教育実践実績を持った教員を加え、教育に関する理論と実践の一層の融合を図り、総合的・学際的な教育研究を行う。 本連合講座では、教育理論と実践の一層の融合を図り、学校教育における課題解決のための実践的研究の活性化に貢献し、教科横断的な特色あるカリキュラム編成や社会に開かれた学校づくりについて中心的な役割を担うことのできる人材の養成、高度な専門性と実践力を持った教員養成を目指す教職大学院の実務家教員を含め、高度な資質能力を持つ研究者あるいは指導者の養成を目標とする。

教科教育実践学専攻

教科教育実践学専攻では、各連合講座の基本概念を基盤にして教科教育学、教科専門諸科学の実践に関わる原論、内容論、方法論による教育研究を目指す。基礎的原論では、教科の存立根拠や目的を追求し、内容論では、教育実践の視点において教科専門諸科学を統合して教科内容の基礎を固め、方法論では、幼児・児童・生徒の認識や行動の発達の側面を追求しながら教育実践を推進し、さらに、この3者を統合して次世代を先導する創造的な教育課程（実践的原論）を構築する。このように、幼児・児童・生徒の健全な人間形成という視点から教科に関わる実践の方向や発展を示す研究を総合的に行う。

連合講座	内容
言語系教育連合講座	本連合講座は、言語認識と言語行動を包摂する、高次の「言語表現」を基本概念とした教育研究を行い、学校教育における言語教育の発展・向上を図る。即ち、言語教育の成り立ちと、これを支える基本概念・基本原則に関わる原論を基軸とし、教育実践における内容と方法の学際的、統合的研究により、新しい言語教育課程の研究推進を中心的課題とする。 情報化、国際化、生涯学習の拡充等、社会変容の進む現代の学校教育においては、教育に関する独創的な研究構想力並びに時代に即した柔軟な言語教育課程の開発力を備えた研究者・高度専門的職業人が待望されており、本連合講座においては、そのような研究能力を涵養するとともに、言語教育実践学の構築を図る。
社会系教育連合講座	本連合講座は、現代の学校教育において要請される国際化、情報化の進展と価値の多様化の社会的趨勢に適切に対応できる科学的社會認識及び公民的資質を形成するため、「社会認識」を基本概念として、社会系教育の専門的、体系的教育研究を行い、学校教育推進者として、自立して研究し得る高度な研究者及び専門的職業人を養成し、研究能力の涵養を図る。 原論では社会認識に関する原理、歴史及び比較を構成概念とした教育研究を行う。内容論では人間と地域を基礎概念とした歴史、地理、環境、社会制度、思想を主軸として教育研究を行う。また、方法論では児童生徒の社会認識の発達の観点から、授業設計・分析、教材、評価等の教育方法的研究を推進する。それらの統合によって社会系教育の教育研究の実をあげる。

連合講座	内容
自然系教育連合講座	本連合講座は、急速に進展する科学技術の趨勢を捉え、「科学的創造性」及び「科学力の獲得」を基本概念として教育研究を行う。新しい学校教育における科学教育の方向を先導しつつ、先端科学の更なる進展を担う次世代に求められるサイエンス・リテラシーの在り方を問直し、創造的自然科学を生み出す新しい教育課程の研究推進を中心的課題とする。創造性に繋がる数理・自然科学教育を行うために、教員自ら独創的研究を切り開く科学者としての能力を身に付けることが肝要であり、本連合講座では、研究者並びに専門的職業人として地域と時代に即した新しい教育を開発できるよう、高度の専門的能力を有する人材の養成を行う。 現代の先端的科学技術の成果は広い学際的専門領域の研究協力に負うところが多く、新しい科学教育、特に専門職教育においては多くの分野の協力が不可欠なことに鑑み、本連合講座は学際的教育研究を推進する。即ち、数学分野においては「代数構造」、「空間構造」、「数理解析」、「数理情報」を、また、理科分野においては「物質・エネルギー」、「分子反応」、「生命情報」及び「地球・宇宙システム」を基礎概念として教育研究の統合を図り、斯学の高度な研究能力を涵養する。
芸術系教育連合講座	本連合講座は、「芸術表現」と「芸術鑑賞」の基本概念のもとに芸術教育に関わる研究を行い、高度な芸術教育研究を推進しうる研究者及び専門的職業人の育成を目指す。 この基本概念のもとに本連合講座で探求される芸術研究は、芸術の表現と鑑賞に関わるメカニズム及び価値体系の解明を理論的・実践的に行うとともに、芸術行為が人間にとって、いかなる意義を持つかを問い直し明らかにする。そして、このような芸術研究を人間形成の視点から統合して学校教育に導入し、芸術による人間教育のあるべき教育課程の確立を図る。これらの高度で実践的な研究を遂行するため、本連合講座では、多くの専門分野の協力による広範囲の学際的研究を背景にして、学校教育における芸術教育の実践的研究を実現し、芸術教育実践学の構築を考究する。
生活・健康系教育連合講座	本連合講座は、保健体育分野、技術分野及び家庭分野の領域を包括し、「環境への適応と醸成」という基本概念を基軸として、人間と環境との関わりに関連する諸科学を統合した新しい分野の教育研究の推進を図る。すなわち、「生活科学」、「生活工学」、「生活文化」、「生活環境」、「健康科学」及び「スポーツ科学」などの、広汎な科学技術の人間生活への応用と人間形成についての学際的研究を通して、幅広い視野と高度な教育研究を推進しうる研究者及び専門的職業人の育成を行う。 本連合講座では特に総合的・学際的であるという特徴を活かし、各々の分野の基本に関わる課題で、かつ未来を見通した教育内容及び教育課程に関する総合的な課題についての研究を遂行する。例えば、環境、健康・スポーツという生活に密接に関わる諸課題や、情報化・国際化・高齢化という社会や家庭生活の急速な変容、及びエネルギーや材料資源の大量消費に起因する諸問題に適切に対応するための教育に関する研究を通して、広い視野で今後の教育の在るべき姿を専門的に考究し得る人材を育成する。

主指導教員となり得る者の教育研究分野

1. 学校教育実践学専攻

連合講座	主指導教員氏名	所属大学	職 名	教育研究分野	
				名 称	内 容
学校教育方法	梶 井 一 暁	岡 山 大 学	教 授	教育学（教育史）	教育史，特に日本教育史，人間形成文化史に関する研究
	青 木 多寿子	岡 山 大 学	教 授◆	教育心理学	教育心理学，特に児童生徒のポジティブな特性を学校教育の中で育成する諸方法に関する発達研究
	越 良 子	上越教育大学	教 授	教育心理学	教育社会心理学，特に教師・生徒の相互作用研究及び集団適応と自己評価に関する研究
	寺 澤 孝 文	岡 山 大 学	教 授	教育心理学	特に記憶の長期持続性及びデータサイエンスと基礎系心理学の融合領域に関する研究
	川 上 綾 子	鳴門教育大学	教 授	教育心理学	認知心理学，特に学習者の認知過程の解明とそれに基づく教育的支援に関する研究
	三 宅 幹 子	岡 山 大 学	教 授	教育心理学	教育心理学，発達心理学，特に小・中学生の社会性の伸長や集団適応を促す教育実践に関する研究
	三 沢 良	岡 山 大 学	准教授	教育心理学	教育心理学，特に学校組織及び教職員集団における協働と職能開発に関する研究
	内 田 香奈子	鳴門教育大学	准教授	教育心理学	教育心理学，特に感情教育や，ストレスへの対処方法にかかわる心理学的研究
	角 谷 詩 織	上越教育大学	教 授	発達心理学	発達心理学，特に小・中学生の適応を促す教育実践に関する研究
	高 瀬 淳	岡 山 大 学	教 授	学 校 経 営	教育行政学，特に学校の管理運営及び教育活動の改善を促進する教育行政制度の研究
	安 藤 知 子	上越教育大学	教 授	学 校 経 営	学校経営学，特に学校組織における教師の教育行為に関する研究及びその役割葛藤に関する研究
	別 惣 淳 二	兵庫教育大学	教 授	学 校 経 営	教育経営学，特に教師の職能発達と教師教育論に関する研究
	熊 谷 愼之輔	岡 山 大 学	教 授	学 校 経 営	地域教育経営，特に生涯学習の観点に立った学校・家庭・地域の連携による学校・地域づくりに関する研究
	大 野 裕 己	兵庫教育大学	教 授	学 校 経 営	教育経営学，特に学校の組織過程に関する研究及び学校指導者の力量と形成システムに関する研究
	川 上 泰 彦	兵庫教育大学	教 授	学 校 経 営	教育行政学，特に都道府県・市町村など地方レベルにおける教育政策の立案・実施や教育行財政に関する研究
	大 前 敦 巳	上越教育大学	教 授	教育社会学	教育社会学，特に日本とフランスにおける文化資本伝達に関する研究
	長谷川 哲 也	岐 阜 大 学	准教授	教育社会学	教育社会学，特に教師教育及び高等教育に関する理論的・実証的研究
	益 子 典 文	岐 阜 大 学	教 授	教育内容・方法論	教育工学，特に教師の教育技術・実践知の分析及び研修プログラムの開発
	今 村 光 章	岐 阜 大 学	教 授	教育内容・方法論	環境教育，特に幼児期の自然体験型環境教育カリキュラムの開発及び環境教育の理論研究
	森 廣 浩一郎	兵庫教育大学	教 授	教育内容・方法論	教育工学，特に学習支援システムの開発と評価に関する研究
	今 井 亜 湖	岐 阜 大 学	教 授	教育内容・方法論	教育工学，特に初等・中等教育を対象とした教材開発・学習環境構築及びカリキュラムの開発
	小 川 修 史	兵庫教育大学	教 授	教育内容・方法論	教育工学，特に特別支援教育における ICT 活用と評価に関する研究

※1…職名は令和6年10月1日時点の職名。

※2…職名に★のある教員の研究指導は令和7年3月31日まで，職名に◆のある教員の研究指導は令和8年3月31日まで，職名に*のある教員の研究指導は令和9年3月31日までの予定。

連合講座	主指導教員氏名	所属大学	職 名	教育研究分野	
				名 称	内 容
学校教育臨床	渡 部 雅 之	滋 賀 大 学	教 授 *	教 育 心 理 学	空間認知並びに視点取得の生涯発達研究とその臨床的応用
	藤 原 和 政	兵庫教育大学	准教授	教 育 心 理 学	学校心理学，特に児童生徒の学校適応を促進することを目的とした援助のあり方に関する研究
	市 井 雅 哉	兵庫教育大学	教 授◆	臨 床 心 理 学	臨床心理学，特に子ども・成人の不安，抑うつ，トラウマの査定と援助に関する研究
	葛 西 真記子	鳴門教育大学	教 授	臨 床 心 理 学	特にジェンダーやセクシュアリティ，異文化，精神分析的自己心理学，カウンセラー養成に関する研究と実践
	海 野 千畝子	兵庫教育大学	教 授	臨 床 心 理 学	臨床心理学，子ども虐待，特に被虐待児童の治療的介入に関する研究
	宮 下 敏 恵	上越教育大学	教 授	臨 床 心 理 学	学校臨床心理学，特に教師のバーンアウトプロセス及びバーンアウト予防などメンタルヘルス対策に関する研究
	片 山 美 香	岡 山 大 学	教 授	臨 床 心 理 学	乳幼児期の子育ち・子育て支援に関する研究
	小 倉 正 義	鳴門教育大学	教 授	臨 床 心 理 学	発達臨床心理学，特に親と子どものメンタルヘルス，発達障がい児者への支援に関する研究
	伊 藤 大 輔	兵庫教育大学	教 授	臨 床 心 理 学	認知行動療法，特に医療・産業・教育領域における問題解決のための心理学的研究
	佐田久 真 貴	兵庫教育大学	准教授	臨 床 心 理 学	臨床心理学，特に応用行動分析学／発達障害児・者支援に関する研究
	古 川 洋 和	鳴門教育大学	准教授	臨 床 心 理 学	臨床心理学，特に行動療法，認知療法，認知・行動療法に関する研究
	池 田 浩 之	兵庫教育大学	准教授	臨 床 心 理 学	臨床心理学，特に認知行動療法，発達障害・精神障害のある者への就労支援に関する研究
	板 倉 憲 政	岐 阜 大 学	准教授	臨 床 心 理 学	臨床心理学，家族心理学，ブリーフセラピー（MRI・SFA）を基盤とする家族支援や被災者支援に関する研究
	坂 本 裕	岐 阜 大 学	教 授◆	特別支援教育に関する教育	障害児教育学，特に知的障害特別支援学校・学級の教育課程に関する研究
	河 合 康	上越教育大学	教 授 *	特別支援教育に関する教育	特別支援教育学，特に欧米及び途上国とわが国の特別支援教育に関する比較教育学的研究
	大 谷 博 俊	鳴門教育大学	教 授 *	特別支援教育に関する教育	障害児教育学，特に知的障害教育における進路指導・キャリア教育に関する研究
	高 橋 眞 琴	鳴門教育大学	教 授	特別支援教育に関する教育	特別支援教育学，特に社会と環境との相互作用によって生じるディスアビリティと人間発達に関する研究
	大 竹 喜 久	岡 山 大 学	教 授	特別支援教育に関する教育	障害児教育の理念と実践，特に知的障害特別支援学校の授業実践に関する研究
	吉 利 宗 久	岡 山 大 学	教 授	特別支援教育に関する教育	特別支援教育学，特にインクルーシブ教育の法制と実践に関する研究
	佐 藤 暁	岡 山 大 学	教 授★	特別支援教育に関する心理	障害児心理学，特に障害児臨床及び障害児教育指導法
	別 府 哲	岐 阜 大 学	教 授◆	特別支援教育に関する心理	自閉スペクトラム症を有する児童生徒の社会性の理解と支援についての研究
	村 瀬 忍	岐 阜 大 学	教 授 *	特別支援教育に関する心理	障害児心理学，特に言語障害及び学習障害を有する児童生徒の心理特性の理解と支援に関する研究
	石 倉 健 二	兵庫教育大学	教 授	特別支援教育に関する心理	障害児心理学，特に肢体不自由や重症心身障害，協調運動困難のある子どもの発達と家族の支援に関する研究
	岡 村 章 司	兵庫教育大学	教 授	特別支援教育に関する心理	障害児心理学，特に自閉症児及びその保護者に対する応用行動分析に基づく支援に関する研究
	宇 野 宏 幸	兵庫教育大学	教 授 *	特別支援教育に関する生理	障害児心理学，特に認知神経心理学に関する研究
	大 守 伊 織	岡 山 大 学	教 授	特別支援教育に関する生理	小児神経学，特に小児期に発症する神経・精神疾患の生理・病理に関する研究
	伊 藤 弘 道	鳴門教育大学	教 授	特別支援教育に関する生理	小児神経学，特に発達障害児の心理・生理・病理に関する研究

2. 先端課題実践開発専攻

連合講座	主指導教員氏名	所属大学	職 名	教育研究分野	
				名 称	内 容
先端課題実践開発	池 田 誠 喜	鳴門教育大学	教 授	教育心理学	生徒指導学及び学校心理学，特にレジリエンスとスクールエンゲージメントを活用した教育支援に関する研究
	吉 澤 寛 之	岐 阜 大 学	教 授	社会心理学	社会心理学・教育心理学・犯罪心理学，特に子どもの問題行動や社会性と影響する環境要因に関する研究
	谷 田 増 幸	兵庫教育大学	教 授◆	道 徳 教 育	道徳教育論，特に現代英語圏における道徳教育論の諸相と展開に関する研究
	柳 沼 良 太	岐 阜 大 学	教 授	道 徳 教 育	問題解決的な学習及び体験的な学習を活用した道徳科の指導法について理論面と実践面から検討する
	塩 路 晶 子	鳴門教育大学	教 授	幼 児 教 育	幼児教育学，特に進歩主義教育史に関する研究
	横 松 友 義	岡 山 大 学	准教授	幼 児 教 育	幼児教育学，特にカリキュラム・マネジメント及び保育者研修に関する教育
	田 村 隆 宏	鳴門教育大学	教 授	幼 児 心 理	幼児心理学，特に幼児の語彙学習過程に関する研究及び子育て支援に関する研究
	西 山 修	岡 山 大 学	教 授	保育内容の研究	保育内容学，特に幼児の人や環境と関わる力の発達とその支援，保育者の専門性や成長に関する研究
	馬 場 訓 子	岡 山 大 学	准教授	保育内容の研究	保育内容「健康」の研究，特に乳幼児期の健康教育・安全教育及び保育者の役割や援助に関する研究
	西 川 純	上越教育大学	教 授★	教 科 教 育 学	理科教育学，特に認知研究，学習者相互分析研究，学習臨床研究
	水 落 芳 明	上越教育大学	教 授	教 科 教 育 学	教科教育学，特に教科教育における ICT を活用した学習デザインと評価に関する研究
	大 島 崇 行	上越教育大学	教 授	教 科 教 育 学	教科教育学，初等中等教育学，特に ICT を活用した授業分析による学習設計に関する研究
	加 納 圭	滋 賀 大 学	教 授	教 科 教 育 学	科学コミュニケーション学，特に科学教育，アクティブラーニング，パブリックエンゲージメントに関する研究
	内 海 志 典	岐 阜 大 学	准教授	教 科 教 育 学	理科教育学，特に科学カリキュラム開発及び理科授業設計に関する研究
	石 川 彰 彦	岡 山 大 学	教 授	教 科 内 容 学	産業と科学教育，特に有機化学，環境化学教育，科学リテラシーに関する研究
	市 川 智 史	滋 賀 大 学	教 授◆	教 育 方 法 学	環境教育，特に環境教育の理念，歴史に関する文献研究，意識・実態調査及び参加体験型のプログラム開発
	勝 見 健 史	兵庫教育大学	教 授	教 育 方 法 学	教育方法学，特に国語科における学習評価論（教育的鑑識眼）に関わる実践的研究
	久 我 直 人	鳴門教育大学	教 授*	学 校 経 営	学校経営実践論，特に学校改善に資する学校組織マネジメントの理論的・実践的研究
	芥 川 祐 征	岐 阜 大 学	准教授	学 校 経 営	学校経営学，特に学校管理職を含む教員の養成・研修（現職教員）及び免許・検定制度に関する研究
	若 松 養 亮	滋 賀 大 学	教 授	キャリア教育	キャリアに関する心理学，特に生徒・学生における進路意思決定過程，並びにその支援の方法に関する研究
	平 澤 紀 子	岐 阜 大 学	教 授*	特別支援教育	障害児心理学，特に発達障害児の支援に関する応用行動分析学の研究
	井 澤 信 三	兵庫教育大学	教 授	特別支援教育	障害児心理学，特に自閉症に対する応用行動分析学に基づいた支援方法に関する研究

※1…職名は令和6年10月1日時点の職名。

※2…職名に★のある教員の研究指導は令和7年3月31日まで，職名に◆のある教員の研究指導は令和8年3月31日まで，職名に*のある教員の研究指導は令和9年3月31日までの予定。

3. 教科教育実践学専攻

連合講座	主指導教員氏名	所属大学	職 名	教育研究分野	
				名 称	内 容
言語系教育	菅 井 三 実	兵庫教育大学	教 授	国 語 学 (日本語教育学を含む)	現代日本語学，特に一般的な認知能力と言語能力との相互作用に着目した構文レベルの総合的研究
	小 埜 裕 二	上越教育大学	教 授 *	国 文 学	国文学，特に日本近代文学の小説研究及び童話，詩の研究
	木 村 功	岡 山 大 学	教 授	国 文 学	日本近代文学，特に明治期の文学，漱石文学に関する研究
	松 田 聡	岡 山 大 学	教 授	国 文 学	日本古典文学，特に万葉集に関する研究
	土 屋 聡	岡 山 大 学	教 授	国 文 学	漢文学，特に中国古代・中世の詩文及び文人に関する研究
	吉 川 芳 則	兵庫教育大学	教 授 ◆	国 語 科 教育	国語科教育学，特に説明的文章領域の授業構成と教材開発，教育課程及び論理教育に関する研究
	安 直 哉	岐 阜 大 学	教 授	国 語 科 教育	国語科教育学，特に国語教育における形象理論の研究
	押 木 秀 樹	上越教育大学	教 授	国 語 科 教育	国語科教育，特に文字を手書きする行為，動作及びそれによって生成される字形等とその指導に関する研究
	渡 部 洋一郎	上越教育大学	教 授	国 語 科 教育	国語科教育学，特に思考表出に関する原理研究及び効果的な授業分析に関する国語科授業研究
	幾 田 伸 司	鳴門教育大学	教 授	国 語 科 教育	国語科教育学，特に国語教科書史，国語教材史，教材研究論に関する研究
	浮 田 真 弓	岡 山 大 学	教 授	国 語 科 教育	国語教育史，特に旧制中学校，高等女学校の国語科に関する研究
	小 林 一 貴	岐 阜 大 学	教 授	国 語 科 教育	国語科教育学，特に書くことの教育学，書くことの学習指導，書くことの授業分析に関する研究
	中 村 浩一郎	兵庫教育大学	教 授	英 語 学	英語学，特に比較統語論
	大 場 浩 正	上越教育大学	教 授 *	英 語 科 教育	英語科教育，特に第二言語学習者の中間言語発達過程の解明とその英語教育への応用に関する研究
	吉 田 達 弘	兵庫教育大学	教 授	英 語 科 教育	英語科教育，特に社会文化的アプローチによる教室研究及びカリキュラム研究
	山 森 直 人	鳴門教育大学	教 授	英 語 科 教育	英語教育学，特に英語科授業研究，英語科教師教育に関する分野
社会系教育	下 里 俊 行	上越教育大学	教 授 ★	歴 史	社会系専門諸科学に立脚した社会科の内容構成の原理と体系化に関する研究，ユーラシア近現代史
	森 田 猛	兵庫教育大学	教 授 *	歴 史	歴史学，特に西洋史学史に関する研究
	原 田 昌 博	鳴門教育大学	教 授	歴 史	ドイツ現代史，特にワイマル共和国時代におけるナチズムの台頭原因に関する研究
	町 田 哲	鳴門教育大学	教 授	歴 史	日本近世史，特に地域社会論，村落史に関する研究
	村 井 良 介	岡 山 大 学	教 授	歴 史	日本中世史，特に戦国期の権力に関する研究
	大 清 水 裕	滋 賀 大 学	教 授	歴 史	西洋史，特に古代ローマ史
	山 縣 耕太郎	上越教育大学	教 授	地 理	自然地理学，特に地形学，環境変遷史，自然環境と人間生活との関係に関する研究
	川 田 力	岡 山 大 学	教 授	地 理	人文地理学，特に社会・文化事象の地域的差異及び都市開発地域の空間変容に関する研究
	松 多 信 尚	岡 山 大 学	教 授	地 理	地形学，特に変動地形学，災害の地理学，自然環境と文化・社会との関係に関する研究
	畠 山 輝 雄	鳴門教育大学	准教授	地 理	人文地理学，特に社会地理学，行政地理学に関する研究
	永 田 夏 来	兵庫教育大学	准教授	社 会 学	家族社会学，特にポスト近代社会における家族の多様化と未婚化・晩婚化に関する実証的研究
	森 秀 樹	兵庫教育大学	教 授	哲 学 倫 理 学	哲学（現代哲学），特に現象学に関する研究，並びに他者にさらされる中で形成される自己の構造の研究
	梅 津 正 美	鳴門教育大学	教 授 ◆	社 会 科 教育	社会科教育学，特に歴史教育におけるカリキュラム編成及び授業構成と教材開発に関する研究

連合講座	主指導教員氏名	所属大学	職 名	教育研究分野	
				名 称	内 容
社会系教育	志 村 喬	上越教育大学	教 授◆	社会科教育	社会科教育学，特に地理教育の比較研究及び教材開発に関する研究
	茨 木 智 志	上越教育大学	教 授 *	社会科教育	社会科教育学，特に歴史教育の歴史研究及び比較研究
	吉 水 裕 也	兵庫教育大学	教 授	社会科教育	初等中等教育における社会科地理的内容に関するカリキュラム研究，教科内容編成論研究，授業開発・分析研究
	山 内 敏 男	兵庫教育大学	教 授	社会科教育	社会科教育学，特に歴史教育，教師教育に関する研究
	中 平 一 義	上越教育大学	教 授	社会科教育	社会科教育学，特に公民教育の授業構成と教材開発に関する研究
	山 田 秀 和	岡 山 大 学	教 授	社会科教育	社会科教育学，特に社会系教科のカリキュラム論，授業構成論に関する研究
	福 田 喜 彦	兵庫教育大学	教 授	社会科教育	社会科教育学，特に授業実践及び学習活動の歴史に関する研究
	井 上 奈 穂	鳴門教育大学	准教授	社会科教育	社会科教育学，特に授業実践及び学習活動の評価に関する研究
	田 中 伸	岐 阜 大 学	准教授	社会科教育	社会科教育学，カリキュラム論，市民性教育論に関する研究
自然系教育	林 田 秀 一	上越教育大学	教 授	代 数 学	整数論，特に保型形式及び保型 L 関数の研究
	吉 川 昌 慶	兵庫教育大学	教 授	代 数 学	代数学，特に代数的組合せ論に関する研究
	長谷川 武 博	滋 賀 大 学	教 授	代 数 学	代数学，特に有限体上の代数曲線及びグラフのゼータ関数に関する研究
	宮 内 通 孝	岡 山 大 学	准教授	代 数 学	代数学，特に p- 進体上定義された代数群の表現論の研究
	仲 田 研 登	岡 山 大 学	准教授	代 数 学	代数学，特に表現論の研究に基づく数理構造の形成過程及び現代数学の新しい考え方・視野に関する研究
	濱 中 裕 明	兵庫教育大学	教 授	幾 何 学	代数的位相幾何が本来の専門だが，現在は教材研究も念頭に，組み合わせ論や離散幾何学など幅広く扱っている
	中 川 征 樹	岡 山 大 学	教 授	幾 何 学	代数的位相幾何学，特にリー群の等質空間等の位相的性質に関する研究
	斎 藤 敏 夫	上越教育大学	教 授	幾 何 学	位相幾何学，特に3次元多様体の位相的及び幾何的性質に関する研究
	篠 原 雅 史	滋 賀 大 学	教 授	幾 何 学	離散幾何学，特に空間における点の配置問題に関する研究
	田 中 利 史	岐 阜 大 学	准教授	幾 何 学	位相幾何学，特に低次元多様体の幾何的性質に関する研究
	花 木 良	岐 阜 大 学	准教授	幾 何 学	位相幾何学，特に結び目理論，空間グラフ理論に関する研究及び数学科教材開発と教科内容学
	松 本 健 吾	上越教育大学	教 授 *	解 析 学	関数解析学，特に作用素環論とその記号力学系理論への応用に関する研究
	山 田 雅 博	岐 阜 大 学	教 授	解 析 学	関数空間の解析，特に関数空間及びその上の作用素の解析
	中 村 登	岡 山 大 学	教 授	解 析 学	関数解析学，特に作用素論における作用素単調関数と作用素平均に関する研究
	布 川 和 彦	上越教育大学	教 授	数 学 科 教 育	数学的問題解決過程の分析と指導のあり方，算数・数学の授業における学習活動の分析と開発
	秋 田 美 代	鳴門教育大学	教 授	数 学 科 教 育	数学教育学，特に算数・数学科教育における学習指導法，教材開発，評価法等に関する研究
	岡 崎 正 和	岡 山 大 学	教 授	数 学 科 教 育	数学科教育学，特に算数から数学への移行を視点にした，デザイン実験による算数・数学の授業開発論
	庭 瀬 敬 右	兵庫教育大学	教 授★	物 理 学	物性物理学，特に高エネルギー粒子線照射場での衝突現象及び微視的物性の変化の研究
	本 田 亮	鳴門教育大学	教 授★	物 理 学	物性物理学，特に電子スピン共鳴を用いた固体物性の研究

※1…職名は令和6年10月1日時点の職名。

※2…職名に★のある教員の研究指導は令和7年3月31日まで，職名に◆のある教員の研究指導は令和8年3月31日まで，職名に*のある教員の研究指導は令和9年3月31日までの予定。

連合講座	主指導教員氏名	所属大学	職 名	教育研究分野	
				名 称	内 容
自然系教育	稲 田 佳 彦	岡 山 大 学	教 授	物 理 学	物性物理学，特に超伝導，磁性，重い電子系等の強相関電子物性に関する研究
	伊 藤 恵 司	岡 山 大 学	教 授	物 理 学	材料物性学，特に中性子や X 線等の量子ビームを利用した機能性材料の研究
	恒 川 雅 典	滋 賀 大 学	教 授	物 理 学	物性物理学，特に放射光等を利用した電子分光による強相関電子系化合物や高機能性材料の研究
	徳 田 陽 明	滋 賀 大 学	教 授	物 理 学	応用物理学に関する教育研究
	小 川 佳 宏	上越教育大学	教 授	物 理 学	物性物理学，特に固体のレーザー分光の研究
	小和田 善 之	兵庫教育大学	教 授	化 学	機能物質化学，特にアモルファス材料の構造及び無機機能物質の電子状態と物性に関する研究
	糸 乗 前	滋 賀 大 学	教 授	化 学	化学，有機化学反応を利用した物質分離と質量分析法及び核磁気共鳴法による化学構造解析に関する研究
	山 口 忠 承	兵庫教育大学	教 授	化 学	機能性有機材料学，特に有機化学に関する研究
	徳 田 陽 明	滋 賀 大 学	教 授	化 学	無機化学・物理化学に関する教育研究
	安 藤 元 紀	岡 山 大 学	教 授	生 物 学	生理学，特に動物の体を構成する細胞・組織・器官の構造と機能の連関に関する研究
	糸 乗 前	滋 賀 大 学	教 授	生 物 学	生化学，特に無脊椎動物の生体成分である糖質・脂質・糖脂質の構造と機能に関する研究
	米 延 仁 志	鳴門教育大学	教 授	地 学	第四紀における自然史における高精度年代測定と環境復元を行い，環境変動と人類との関わりを研究
	濤 崎 智 佳	上越教育大学	教 授	地 学	天文学，特に観測に基づいた銀河・星間物質の構造と進化に関する研究
	藤 岡 達 也	滋 賀 大 学	教 授★	理 科 教 育	理科教育学，特に環境教育・ESD や防災教育などを取り入れた教育課程及び教材開発に関する研究
	山 本 智 一	兵庫教育大学	教 授	理 科 教 育	理科教育学，特に理科学習における科学的な説明能力の育成に関する研究
	山 田 貴 之	上越教育大学	教 授	理 科 教 育	理科教育学，特に児童生徒の科学的な探究能力の育成に関する研究
	川 崎 弘 作	岡 山 大 学	准教授	理 科 教 育	理科教育学，特に科学的思考力の育成，概念変容，人間性の涵養等に関わる指導と評価に関する研究
芸術系教育	新 山 眞 弓	兵庫教育大学	教 授★	器 楽	器楽，特に鍵盤楽器に関する作品の楽曲分析・演奏解釈・演奏法に関する研究
	時 得 紀 子	上越教育大学	教 授★	音 楽 科 教 育	音楽科教育学，特に音楽科カリキュラムの日米比較をもとにした開発と評価，学校音楽教育に関する研究
	尾 崎 祐 司	上越教育大学	教 授	音 楽 科 教 育	音楽教育学，特に学校音楽科教育におけるインクルーシブ教育に関する授業の実践学的研究
	鉄 口 真理子	鳴門教育大学	教 授	音 楽 科 教 育	教育実践学，特に音楽科の授業構成，学習方法に関する研究
	早 川 倫 子	岡 山 大 学	教 授	音 楽 科 教 育	音楽科教育，特に乳幼児教育から児童期にかけての音楽的発達と音楽カリキュラムに関する研究
	大 西 久	兵庫教育大学	教 授	絵 画	絵画，特に形象，色彩，素材等の相互作用による表現の多様性及び深化に関する研究
	伊 藤 将 和	上越教育大学	准教授	絵 画	絵画，特に現代における美術表現の拡大と多様性に関する研究
	前 芝 武 史	兵庫教育大学	教 授	彫 刻	彫刻，特に塑造実技による具象彫刻の制作を主軸とした，彫塑造形論・彫塑教育論に関する研究
	松 尾 大 介	上越教育大学	教 授	彫 刻	彫刻，特に実材を中心とした彫刻制作，彫刻の教材に関する研究
	家 崎 萌	鳴門教育大学	准教授	彫 刻	場や空間，他者とかかわる造形表現，造形を介して形成される場とコミュニケーションに関する美術教育
	内 藤 隆	鳴門教育大学	教 授	デ ザ イ ン	デザイン，特にグラフィックデザイン及び映像に関する研究

連合講座	主指導教員氏名	所属大学	職 名	教育研究分野	
				名 称	内 容
芸術系教育	山 本 政 幸	岐 阜 大 学	教 授	デ ザ イ ン	デザイン, 特に視覚伝達デザイン及びタイポグラフィに関する研究
	中 村 史 朗	滋 賀 大 学	教 授◆	書	書, 制作論及び書道史学, 特に「漢字」「漢字仮名交じりの書」の技法研究, 近代書法交流史を中心とする
	浅 海 真 弓	兵庫教育大学	教 授	工 芸	工芸の造形表現としての特性を活かした製作と教材開発に関する研究
	隼 瀬 大 輔	岐 阜 大 学	准教授	工 芸	工芸制作に関する研究, 特に木工芸, 工芸教育に関する研究
	喜多村 明 里	兵庫教育大学	教 授	美術理論・美術史	美学美術史学・文化史, 特にイタリア・ルネサンス期の美術文化史並びに芸術表象と, 鑑賞批評の教育に関する研究
	松 本 健 義	上越教育大学	教 授★	美術科教育	美術科教育, 特に子供の造形表現の成立過程に基づく授業内容と学習過程の論理及び方法の研究
	高 木 厚 子	兵庫教育大学	教 授◆	美術科教育	美術教育学, 特に美術・図画工作科に関わる学習者及び教授者の認知行動的側面を研究
	青 木 善 治	滋 賀 大 学	教 授	美術科教育	美術教育学, 特に美術教育における造形遊びの知見を基盤にした授業及び教材に関する研究
	清 田 哲 男	岡 山 大 学	教 授	美術科教育	美術科教育, 特に子どもの成長に応じた教材開発及びカリキュラムに関する研究
生活・健康系教育	中須賀 巧	兵庫教育大学	准教授	体 育 学	体育・スポーツ心理学, 特にスポーツ教育実践における動機づけ雰囲気に関する研究
	春 日 晃 章	岐 阜 大 学	教 授	運 動 学	発育発達学, 測定評価学, 特に幼少年期の体力・運動能力に関する研究
	小 田 俊 明	兵庫教育大学	教 授	運 動 学	バイオメカニクス, 特に運動器の特性とスポーツ技術の関係に関する研究
	松 田 繁 樹	滋 賀 大 学	教 授	運 動 学	健康・スポーツ科学, 特に発育発達に関する研究, トレーニングに関する研究
	松 浦 亮 太	上越教育大学	准教授	運 動 学	運動神経生理学, 特にヒトの筋疲労メカニズムの解明とその生物学的意義の検討
	上 田 真 也	岐 阜 大 学	准教授	運 動 学	運動生理学, 特に運動時におけるエネルギー代謝に関する研究
	林 陵 平	岐 阜 大 学	准教授	運 動 学	特に子どもや成人アスリートまでを対象としたトレーニング学及びコーチング学的研究
	伊 藤 武 彦	岡 山 大 学	教 授 *	学 校 保 健	学校保健医科学, 特に薬物乱用に関する研究及び保健統計等の活用に関する研究
	三 村 由香里	岡 山 大 学	教 授	学 校 保 健	学校保健医科学, 特に成長・発達における内分泌環境の影響に関する研究
	松 枝 睦 美	岡 山 大 学	教 授	学 校 保 健	学校保健医科学, 特に子どもの発達過程と保健管理・保健指導に関する研究
	上 村 弘 子	岡 山 大 学	教 授	学 校 保 健	養護実践学, 特に学校における保健管理, 保健指導に関する研究
	岡 本 希	兵庫教育大学	教 授	学 校 保 健	学校保健医科学, 特にライフステージ別の健康づくりに関する研究
	大 平 雅 子	滋 賀 大 学	教 授	学 校 保 健	人間の生体情報・生理状態の計測による評価研究, 就寝環境(光・香り・音楽等)デザインに関する研究
	筒 井 茂 喜	兵庫教育大学	教 授 *	保健体育科教育	体育科教育学, 特に「身体接触を伴う運動の教育的効果」「状況判断力」「運動イメージ」に関する研究
	足 立 稔	岡 山 大 学	教 授	保健体育科教育	保健体育科教育, 特に子どもの健康増進や体力向上に対する保健体育の意義や存在根拠についての基礎研究
	辻 延 浩	滋 賀 大 学	教 授	保健体育科教育	保健体育科教育学, 特に体育科における課題解決的学習の方法原理に関する教育
	周 東 和 好	上越教育大学	教 授	保健体育科教育	保健体育科教育学, 特に体育授業における動きの学習指導に関する研究及び教師の授業実践力に関する研究
	酒 向 治 子	岡 山 大 学	教 授	保健体育科教育	保健体育科教育, 特に舞踊教育学, 身体表現に関する研究
	宮 下 晃 一	鳴門教育大学	教 授◆	技術教育内容学	機械工学, 特にものづくりや環境・エネルギーに関わる教育研究

※1…職名は令和6年10月1日時点の職名。

※2…職名に★のある教員の研究指導は令和7年3月31日まで, 職名に◆のある教員の研究指導は令和8年3月31日まで, 職名に*のある教員の研究指導は令和9年3月31日までの予定。

連合講座	主指導教員氏名	所属大学	職 名	教育研究分野	
				名 称	内 容
生活・健康系教育	小 山 英 樹	兵庫教育大学	教 授	技術教育内容学	技術教育内容学，特にエネルギー変換の内容とその教材開発に関する研究
	入 江 隆	岡 山 大 学	教 授	技術教育内容学	電子計測学，特に生体計測とそのデータ解析に関する研究
	宮 本 賢 治	鳴門教育大学	教 授	技術教育内容学	電気工学，特にプラズマ理工学と電子・イオンビーム光学に関する研究
	森 太 郎	滋 賀 大 学	教 授	技術教育内容学	栽培学，特に作物栽培における環境保全・高品質化・省力化技術の開発と栽培学習に関する研究
	野 毛 宏 文	岡 山 大 学	准教授	技術教育内容学	電子工学，特に可視発光性半導体材料の特性評価と応用に関する研究
	伊 藤 陽 介	鳴門教育大学	教 授	情報教育内容学	情報工学，特に画像処理と知能情報処理に関する研究，並びに，情報技術教育に関する研究
	山 崎 貞 登	上越教育大学	教 授★	技術・情報教育学	技術科教育学，特に技術教育課程開発と技術教材の機能に関する研究
	伊 藤 陽 介	鳴門教育大学	教 授	技術・情報教育学	技術科教育学，特に技術・情報教育の内容と方法及び教材開発に関する研究
	森 山 潤	兵庫教育大学	教 授	技術・情報教育学	技術科教育，特に生徒の認知的実態の分析に基づく学習指導，教材，カリキュラムの改善・開発に関する研究
	岳 野 公 人	滋 賀 大 学	教 授	技術・情報教育学	技術教育学，特に学習者の認知過程に関する研究
	東 原 貴 志	上越教育大学	教 授	技術・情報教育学	技術科教育学，特に木材加工に関する教材及び学習方法に関する研究
	阪 東 哲 也	鳴門教育大学	准教授	技術・情報教育学	技術を軸とした教科横断的な問題解決学習に関する研究，個人特性を踏まえた授業における ICT 活用に関する研究
	岸 田 恵 津	兵庫教育大学	教 授◆	家庭科内容学	調理科学及び栄養生化学，特に脂質とビタミン，調理における嗜好性と成分の変化に関する研究
	李 璟 媛	岡 山 大 学	教 授 *	家庭科内容学	家族学，特に子どものしつけと虐待に関する日韓比較及びひとり親家族の子ども支援に関する日韓比較研究
	大 藪 千 穂	岐 阜 大 学	教 授 *	家庭科内容学	家庭経済学，特に家計分析，消費者教育，金融教育，ライフスタイル論に関する研究
	西 川 和 孝	鳴門教育大学	教 授	家庭科内容学	食品学，栄養学及び調理学，特に食品中の成分の抗酸化及び抗菌活性に関する研究
	速 水 多佳子	鳴門教育大学	教 授	家庭科教育学	家庭科教育学，特に小・中・高等学校の授業開発研究
	永 田 智 子	兵庫教育大学	教 授	家庭科教育学	小中高等学校における家庭科教育の授業方法や授業研究の方法論に関する研究

授業科目

総合共通科目(各2単位)

連合講座	授業科目
全連合講座	教育実践基礎研究Ⅰ 教育実践基礎研究Ⅱ

専門科目(各2単位)

連合講座	区分	授業科目
学校教育方法連合講座	総 合	学校教育の方法
		教育内容・方法特別研究/教育工学・教育情報学特別研究 教授学習・発達特別研究/学校教育学特別研究 学校教育史特別研究/学校教育社会学特別研究 学校教育経営学特別研究/学級経営心理学特別研究
学校教育臨床連合講座	総 合	学校教育の臨床
		生徒指導特別研究/学校教育相談特別研究 学校精神保健学特別研究/障害児発達支援教育学特別研究 障害児発達支援心理学特別研究/障害児発達支援行動学特別研究
先端課題実践開発連合講座	総 合	先端教育課題総合研究
		現代教育課題特別研究 / 心の教育特別研究 教育発達課題特別研究Ⅰ / 教育発達課題特別研究Ⅱ 学習臨床特別研究
言語系教育連合講座	総 合	言語表現と言語認識の発達
	原 論	国語教育基礎特別研究/国語教育課程特別研究/日本語教育基礎特別研究
	内容論	国語の表現と類型/国語文化の創造と受容
	方法論	国語授業特別研究/国語教材特別研究 / 日本語教育特別研究
社会系教育連合講座	原 論	英語教育基礎特別研究/英語教育課程特別研究
	内容論	英語表現・構造特別研究/英語文化・コミュニケーション特別研究
	方法論	英語授業特別研究/英語教材特別研究
	総 合	現代社会と社会認識形成
社会系教育連合講座	原 論	社会認識教育基礎特別研究/社会認識教育課程特別研究
	内容論	人間の歴史と地域/地域と環境/社会制度と人間行動/人間と思想
	方法論	社会認識授業特別研究/社会認識教材特別研究/生活科教育特別研究

連合講座	区分	授業科目
自然系教育連合講座	総 合	新しいサイエンス・リテラシー
	原 論	数学教育基礎特別研究 / 数学教育課程特別研究
	内容論	数理構造論 / 数理基礎科学教育 / 数学の本質と数学教育
	方法論	数学授業特別研究 / 数学教材特別研究
	原 論	理科教育基礎特別研究 / 理科教育課程特別研究
	内容論	エネルギー, 環境と生命現象の科学 / 地球システム教育 / 物質の基礎と機能性物質
芸術系教育連合講座	方法論	理科授業特別研究 / 理科教材特別研究 / 生活科教育特別研究
	総 合	人間の成長と芸術活動
	原 論	音楽教育基礎特別研究 / 音楽教育課程特別研究
	内容論	音楽表現と技法 / 音楽鑑賞と理論
	方法論	音楽授業特別研究 / 音楽教材特別研究
	原 論	美術教育基礎特別研究 / 美術教育課程特別研究
生活・健康系教育連合講座	内容論	美術表現と技法 / 美術鑑賞と理論
	方法論	美術授業特別研究 / 美術教材特別研究
	総 合	生活環境の創造
	原 論	保健体育教育基礎特別研究 / 保健体育教育課程特別研究
	内容論	スポーツの科学 / 健康の科学
	方法論	保健体育授業特別研究 / 保健体育教材特別研究
	原 論	技術・情報教育基礎特別研究 / 技術・情報教育課程特別研究
	内容論	技術教育内容特別研究 / 情報教育内容特別研究
	方法論	技術・情報授業特別研究 / 技術・情報教材特別研究
	原 論	家庭科教育基礎特別研究 / 家庭科教育課程特別研究
	内容論	家庭科内容特別研究
	方法論	家庭科授業特別研究 / 家庭科教材特別研究

課題研究（各2単位）

連合講座	授業科目
全連合講座	課題研究Ⅰ～Ⅴ

修了要件及び学位

(1) 課程修了による学位の授与

標準修業年限の3年以上（優れた研究業績をあげた者にあつては修士課程等を含めて3年以上）在学し、総合共通科目4単位、専門科目8単位以上及び課題研究 10 単位の合計 22 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び試験に合格することを必要とする。なお、学位論文を提出するに当たっては、本研究科が実施する博士候補認定試験に合格していることを必要とする。

修了した者には兵庫教育大学から博士の学位を授与するが、授与に当たって付記する専攻分野の名称は原則として、「学校教育学」とする。

(2) 論文提出による学位の授与

本研究科が行う学位論文の審査に合格し、かつ、博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された者についても学位を授与している。

学位授与区分 年度	課程修了			論文提出		
	学校教育学	学 術	計	学校教育学	学 術	計
平成10年度	6 (1)	2	8 (1)	0	0	0
平成11年度	10	4 (1)	14 (1)	0	0	0
平成12年度	12 (2)	0	12 (2)	3	0	3
平成13年度	6	2 (1)	8 (1)	4	0	4
平成14年度	16 (3)	4 (1)	20 (4)	8	0	8
平成15年度	10	2 (1)	12 (1)	8	0	8
平成16年度	16 (2)	2 (2)	18 (4)	8 (1)	0	8 (1)
平成17年度	15	4 (1)	19 (1)	8	0	8
平成18年度	12	1	13	7 (2)	2 (1)	9 (3)
平成19年度	13 (2)	3	16 (2)	7	2 (1)	9 (1)
平成20年度	9	4	13	6	1	7
平成21年度	16 (1)	3	19 (1)	5 (1)	0	5 (1)
平成22年度	12 (2)	4 (2)	16 (4)	10	1	11
平成23年度	12	2	14	7 (1)	0	7 (1)
平成24年度	20	1	21	8	2	10
平成25年度	13	2	15	10	1	11
平成26年度	15	0	15	7	0	7
平成27年度	15 (1)	0	15 (1)	12 (1)	0	12 (1)
平成28年度	16 (1)	0	16 (1)	6	0	6
平成29年度	16 (1)	0	16 (1)	5	0	5
平成30年度	20	0	20	7	0	7
令和元年度	15 (1)	0	15 (1)	8	0	8
令和2年度	18	0	18	4	0	4
令和3年度	24 (2)	0	24 (2)	2	0	2
令和4年度	19	0	19	11	0	11
令和5年度	17 (1)	0	17 (1)	4	0	4 (0)
合計	373 (20)	40 (9)	413 (29)	165 (6)	9 (2)	174 (8)

※()は、外国人留学生数を内数で示す。

令和6年3月末現在

学生数等

定員および現員

専攻	定員		現員			
	入学定員	収容定員	1 年次	2 年次	3 年次	合計
学校教育実践学	12	36	12 (9)	16 (7)	44 (32)	72 (48)
先端課題実践開発	6	18	6 (5)	4 (3)	15 (14)	25 (22)
教科教育実践学	18	54	20 (14)	18 (13)	49 (40)	87 (67)
合計	36	108	38 (28)	38 (23)	108 (86)	184 (137)

令和6年5月1日現在

配属大学別学生数

配属大学名	1 年次	2 年次	3 年次	合計
兵庫教育大学	12 (8) [0]	12 (8) [0]	31 (24) [0]	55 (40) [0]
上越教育大学	6 (6) [0]	5 (2) [1]	25 (20) [0]	36 (28) [1]
岐阜大学	8 (6) [1]	3 (3) [0]	10 (8) [0]	21 (17) [1]
滋賀大学	1 (0) [0]	2 (1) [1]	7 (6) [0]	10 (7) [1]
岡山大学	6 (5) [0]	8 (4) [2]	15 (13) [0]	29 (22) [2]
鳴門教育大学	5 (3) [1]	8 (5) [0]	20 (15) [0]	33 (23) [1]
合計	38 (28) [2]	38 (23) [4]	108 (86) [0]	184 (137) [6]

令和6年5月1日現在

外国人留学生

国(地域)名	専 攻			
	学校教育 実 践 学	先端課題 実践開発	教科教育 実 践 学	合計
中国	2	0	3	5
台湾	0	0	1	1
韓国	0	0	0	0
合計	2	0	4	6

令和6年5月1日現在

修了者数

専攻	平成10～令和元年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	合計
学校教育実践学	100 (55) [3]	6 (6) [0]	5 (3) [0]	4 (3) [1]	5 (3) [1]	120 (70) [5]
先端課題実践開発	28 (25) [0]	4 (4) [0]	6 (5) [0]	6 (6) [0]	2 (2) [0]	46 (42) [0]
教科教育実践学	207 (120) [22]	8 (4) [1]	13 (10) [0]	9 (6) [1]	10 (7) [0]	247 (147) [24]
合計	335 (200) [25]	18 (14) [1]	24 (18) [0]	19 (15) [2]	17 (12) [1]	413 (259) [29]

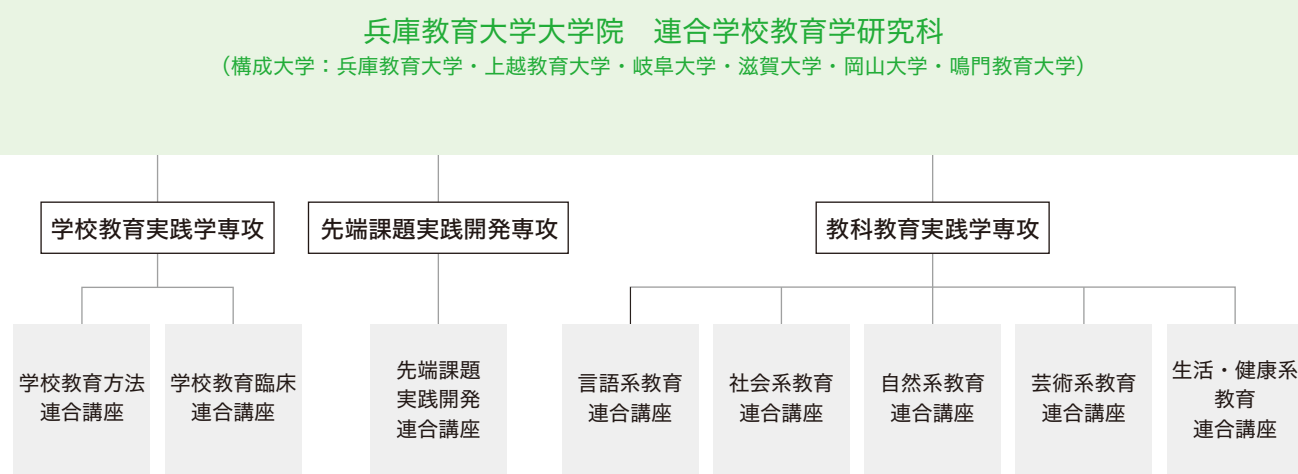
※ () は現職教員数(出願時の状況), [] は外国人留学生数をそれぞれ内数で示す。

研究科の構成

本連合学校教育学研究科は、兵庫教育大学に設置され、兵庫教育大学、上越教育大学及び鳴門教育大学の大学院学校教育研究科の修士課程、岐阜大学、滋賀大学及び岡山大学の大学院教育学研究科の修士課程並びに各大学の附属施設を基盤に編成され、各大学の研究科（修士課程及び専門職学位課程）の密接な連携のもとに運営されているが、それぞれの研究科とは別の独立した研究科であり、後期3年のみの博士課程である。

本研究科には、学校教育実践学専攻、先端課題実践開発専攻、教科教育実践学専攻の3専攻のもとに8連合講座が置かれている。学校教育実践学専攻は学校教育方法、学校教育臨床の2連合講座から、先端課題実践開発専攻は先端課題実践開発の1連合講座から、また教科教育実践学専攻は言語系教育、社会系教育、自然系教育、芸術系教育、生活・健康系教育の5連合講座からなっている。

組織、専攻・講座の編成



研究科の教員組織

専攻	連合講座	連合学校教育学研究科教員						年度担当教員					
		教授	特任教授	准教授	講師	助教	計	教授	特任教授	准教授	講師	助教	計
学校教育実践学	学校教育方法	30	4	12	1		47	23	4	8			35
	学校教育臨床	33	1	13	1		48	29	1	7			37
先端課題実践開発	先端課題実践開発	32		12			44	24		6			30
教科教育実践学	言語系教育	23	2	6	1		32	18	2	2	1		23
	社会系教育	25	1	7			33	15	1	3			19
	自然系教育	36	1	9			46	13	1	2			16
	芸術系教育	28		5			33	15		2			17
	生活・健康系教育	38	1	9	2		50	26		6	1		33
	合計(実人数)	245	10	73	5	0	333	163	9	36	2	0	210

※ 連合学校教育学研究科教員とは、構成大学の教授、准教授、講師又は助教のうち、研究科における研究指導及び講義を担当する資格を有する者又は研究指導の補助及び講義を担当する資格を有する者を表す。また年度担当教員とは、本年度において主指導教員、副指導教員、授業科目担当教員又は研究科代議委員会委員として研究科を担当する教員を表す。

(令和6年5月1日現在)

3年間の履修プロセス

D1 ステージ		D2 ステージ	
前期	4月 ● 入学式 オリエンテーション ● 主指導教員・副指導教員の決定 ● 指導教員が教育研究指導計画書を作成 ● 履修届 教育実践学コンピテンシー・チェック ● 研究題目決定 4月～ ● 構成大学別D1セミナー 8月 ● 総合共通科目・夏期 必修2単位 (集中講義)	4月 ● 履修届 教育実践学コンピテンシー・チェック ● 指導教員が研究指導状況報告・ 研究指導計画書を作成 ● 〈学術論文執筆〉 ● 〈全国学会誌への投稿(第1編)〉 ● 教育実践論文集 ● 〈全国学会誌に論文掲載(第1編)〉 ● 〈博士候補認定試験受験要件の取得〉 ● 〈学会発表〉	● 〈副指導教員の訪問指導〉 ● 〈全国学会誌投稿準備〉 2～3月 ● 総合共通科目・春期 必修2単位 (集中講義)
	● 〈副指導教員の訪問指導〉 ● 〈全国学会誌投稿準備〉 2～3月 ● 総合共通科目・春期 必修2単位 (集中講義)		● 〈博士候補認定試験準備〉 ● 〈博士候補認定試験合格〉 11月～12月 ● 学生研究発表会(研究指導研究会含む) ● 〈副指導教員の訪問指導〉

単位 16単位以上取得

研究 先行研究の検討・文献調査・データ収集

指導 主指導教員1人・副指導教員2人(うち1人は配属大学以外の構成大学教員)の指導教員3人による研究指導体制

支援 社会人学生のためのフレックスタイム・カリキュラム制度導入, TA・RA 採用等による経済的支援, キャリアパスとしての共同研究プロジェクトへの参画,

4単位取得

実践的研究仮説・検証的研究・学位論文デザイン

D3 ステージ

4月 ● 履修届

教育実践学コンピテンシー・チェック

● 指導教員が研究指導状況報告・研究指導計画書を作成

● 〈学術論文執筆〉

● 〈全国学会誌への投稿(第2編)〉

● 〈学位論文指導検討会〉

● 〈学位論文執筆開始〉

● 〈全国学会誌に論文掲載(第2編)〉

● 〈学位論文提出要件の取得〉

● 〈学会発表〉



院生研究室

課題研究

必修2単位

● 〈学位論文指導検討会〉

12月 ● 学位論文完成・提出

1月 ● 学位論文審査委員会設置

2月 ● 学位論文公聴会

学位論文審査委員会

最終試験

3月 ● 研究科教授会による学位授与審議・修了認定

● 公表用学位論文製本

● 指導教員が研究指導実績報告書を作成

● 教育実践学コンピテンシー・チェック

● 学位記授与式



2単位取得 D1+D2+D3=22単位以上取得

学位論文の最終仕上げ

国際的研究活動支援 (国際学会等参加, 国際インターンシッププログラム参加), 研究活動推進支援

沿革

昭和46年	6月	中央教育審議会が教育に関する高度の研究と現職教員の研修を目的とする修士課程程度の大学院の設置を内容とした「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について」を答申
昭和47年	7月	教育職員養成審議会が現職教員のための新構想の大学院の創設等を内容とした「教員養成の改善方策について」を建議
昭和49年	5月	建議を受けて文部省内に設置された「新構想の教員養成大学等に関する調査会」が「教員のための新しい大学・大学院の構想について(報告)」を公表, 報告の中に「この大学院には, 将来は博士課程をも設置する方向で検討する。」を明記
昭和57年	4月	兵庫教育大学博士課程調査委員会を設置し, 兵庫教育大学における博士課程の在り方について検討を開始
昭和61年	7月	3新教育大学(兵庫教育大学・上越教育大学・鳴門教育大学) 共同による現職教員教育調査研究委員会が発足し, 現職教員教育の体系化の中で博士課程を検討
平成元年	8月	兵庫教育大学博士課程委員会を設置
平成3年	2月	日本教育大学協会(博士課程) 検討特別委員会が「教員養成系大学・学部」に設置される大学院博士課程について」に関する報告を作成
	7月	日本教育大学協会が博士課程問題研究会を設置
平成4年	7月	日本教育大学協会から文部大臣に対し, 「教育系大学・学部における大学院博士課程の設置に関する要望書」を提出
平成5年	4月	文部省から大学院改革調査経費が措置され, 3新教育大学の連合による博士課程設置の検討を開始
	5月	兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科(仮称)設置準備委員会を設置
	9月	日本教育大学協会博士課程問題研究会が「教員養成系大学・学部」に設置される大学院博士課程の在り方について」の報告を作成
	12月	兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科設置準備委員会に改称 3新教育大学の連合による設置構想案を作成
平成6年	4月	岡山大学を加え4大学による連合研究科設置について検討を開始 文部省から大学院改革調査経費の措置
	11月	4大学間で「兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科設置に関する構成大学間協定書」を締結
	12月	4大学の連合による設置構想案を作成
平成7年	5月	設置審大学設置分科会総会で「教員養成大学に設置される大学院に関する審査方針について」の一部を改正(「教員養成大学(学部)に置かれる大学院は, 当分の間, 修士課程のみとするのが適当である。」を削除)
	7月	4大学連合による連合学校教育学研究科(博士課程)設置を概算要求 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科設置計画書を文部省に提出
	12月	連合学校教育学研究科の設置を含む政府予算案の閣議決定 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科設立準備委員会を設置
平成8年	4月	国立学校設置法施行令等関係法令の施行により, 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科設置
	5月	平成8年度予算成立の関係から, 5月11日付けで初代研究科長に濱名外喜男就任
平成10年	4月	研究科長に濱名外喜男再任

平成 11 年	3月	連合学校教育学研究科第1回学位記授与式を挙
平成 12 年	4月	研究科長に中渚正堯就任
	12月	研究科長に山下伸典就任
平成 14 年	12月	研究科長に山下伸典再任
平成 16 年	4月	国立大学法人化に伴い「兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科の設置及び運営に関する構成国立大学法人間協定書」を締結 研究科長に岩田一彦就任 連合学校教育学研究科大阪サテライト設置(～令和3年3月)
平成 18 年	4月	研究科長に岩田一彦再任
	9月	連合学校教育学研究科創立10周年記念式典を挙 連合学校教育学研究科同窓会の設立
平成 20 年	4月	研究科長に安部崇慶就任
平成 21 年	4月	先端課題実践開発専攻を設置
平成 22 年	4月	研究科長に原田智仁就任
平成 24 年	4月	研究科長に原田智仁再任
平成 26 年	4月	研究科長に松村京子就任
平成 28 年	4月	研究科長に松村京子再任 入学定員を24人から32人に増員
	9月	連合学校教育学研究科創立20周年記念式典を挙
平成 30 年	4月	研究科長に遊間義一就任
平成 31 年	4月	岐阜大学, 滋賀大学を加え, 構成大学を6大学に拡充 入学定員を32人から36人に増員
令和 2 年	4月	研究科長に松本剛就任
令和 4 年	4月	研究科長に松本剛再任
令和 6 年	4月	研究科長に濱中裕明就任

管理運営

本研究科は、6大学の連合によって構成される独立研究科である。研究科における日常的な業務統括及び構成大学間の調整には、研究科長、研究主幹並びに各構成大学に置かれた副研究科長が当たり、運営組織として研究科運営会議、研究科教授会等を置いている。

1. 研究科運営会議

研究科の管理運営に関する最終的な意思決定を行うために、研究科長、各構成大学から推薦された理事又は副学長(岐阜大学、滋賀大学及び岡山大学にあっては教育学研究科長)、研究主幹、副研究科長で組織している。

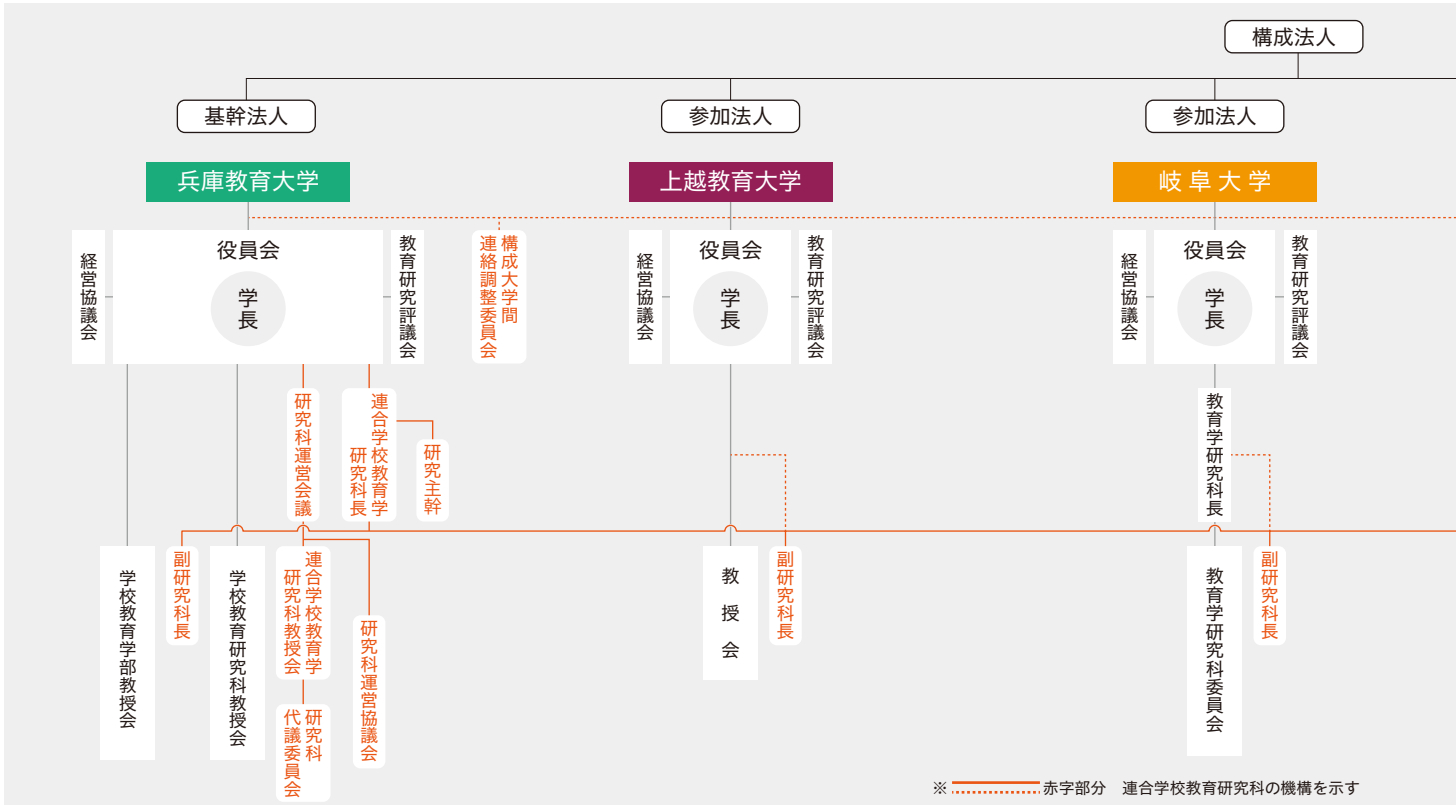
2. 研究科運営協議会

研究科の重要事項について各構成大学の意見調整を行うために、研究科長、研究主幹、副研究科長で組織している。

3. 連合学校教育学研究科教授会

研究科の教育研究に関する重要事項を審議するために、研究科長、各構成大学から推薦された理事又は副学長(岐阜大学、滋賀大学及び岡山大学にあっては教育学研究科長)、研究主幹、副研究科長、各連合講座から選出された主指導教員有資格者、主指導教員で組織している。

連合学校教育学研究科の機構



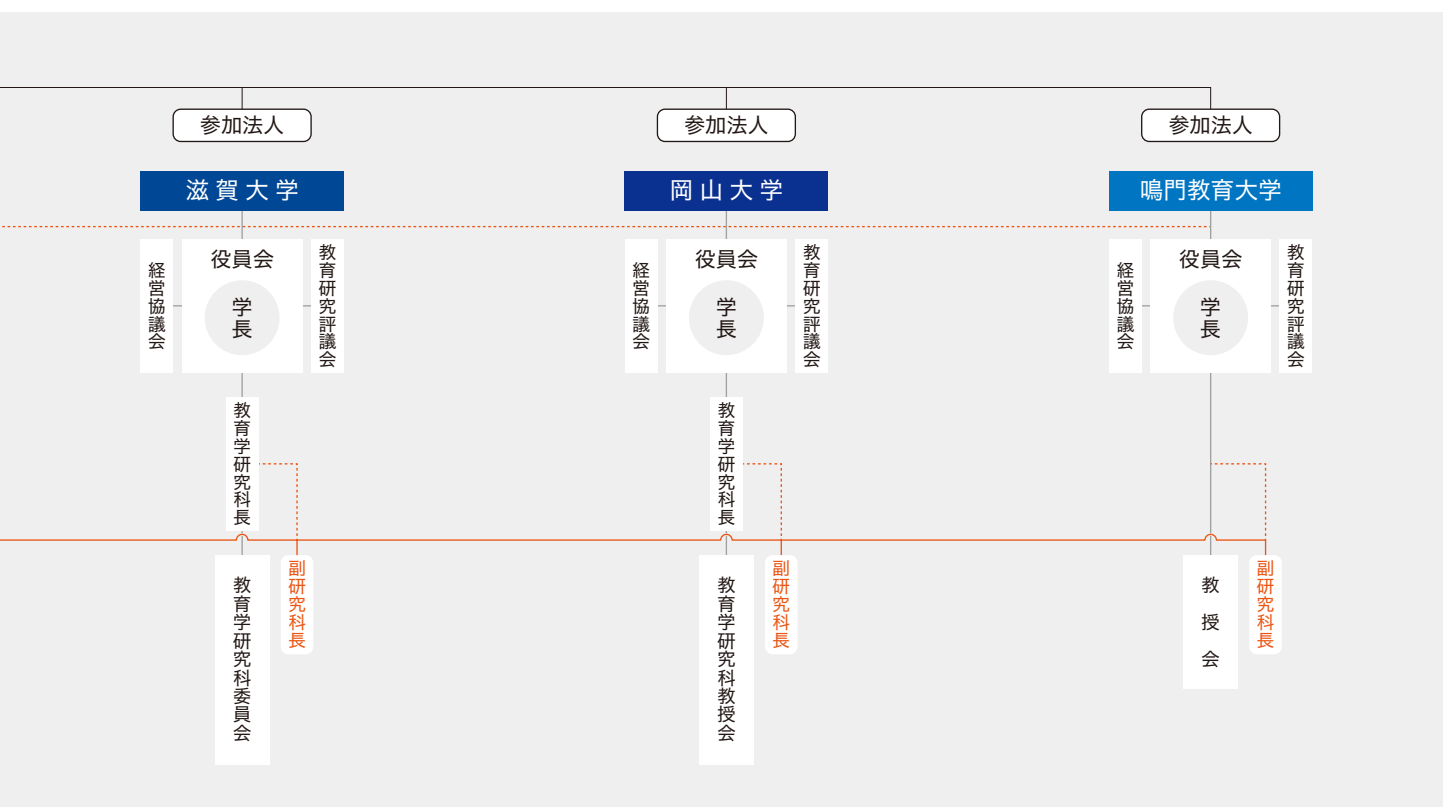
4. 研究科代議委員会

研究科の円滑な運営を図り、研究科教授会からの付託事項を審議するために、研究科長、各構成大学から推薦された理事又は副学長(岐阜大学、滋賀大学及び岡山大学にあっては教育学研究科長)、研究主幹、副研究科長、各連合講座から選出された主指導教員有資格者で組織している。

5. 講座代表者等会議

連合講座における教育研究及び運営に関する連絡調整を行うために、各構成大学の講座代表者、副代表者で組織している。

さらに、本研究科は、6大学平等の精神に基づき、常に密接な連携と協力のもとに管理運営されており、構成大学間の連絡調整のため、構成大学の学長、研究科長、各構成大学から推薦された理事又は副学長(岐阜大学、滋賀大学及び岡山大学にあっては教育学研究科長)、研究主幹、副研究科長、構成大学の管理運営担当の理事又は事務局長で組織する構成大学間連絡調整委員会を設けている。



役職員

構成大学の役職員

兵庫教育大学	加治 佐哲也 (学長) 吉水 裕也 (理事・副学長) 田中 賢一 (副学長・事務局長)
上越教育大学	林 泰成 (学長) 中山 勘次郎 (理事兼副学長) 松崎 和之 (理事兼事務局長)
岐阜大学	吉田 和弘 (学長) 山田 雅博 (教育学研究科長) 北崎 哲章 (事務局次長)
滋賀大学	竹村 彰通 (学長) 久保 加織 (教育学研究科長) 平川 康弘 (理事)
岡山大学	那須 保友 (学長) 高瀬 淳 (教育学研究科長) 袖山 禎之 (理事・事務局長)
鳴門教育大学	佐古 秀一 (学長) 田中 弘之 (理事・副学長) 菊池 智之 (事務局長・副学長)

連合研究科の役職員

連合学校教育学研究科長	濱中 裕明 (兵庫教育大学教授)
研究主幹	吉田 達弘 (兵庫教育大学教授)
副研究科長	山本 智一 (兵庫教育大学教授) 大場 浩正 (上越教育大学教授) 山本 政幸 (岐阜大学教授) 中村 史朗 (滋賀大学教授) 木村 功 (岡山大学教授) 内藤 隆 (鳴門教育大学教授)

講座代表者等会議議長・副議長

学校教育方法連合講座	議長 副議長	川上 綾子 (鳴門教育大学教授) 川上 泰彦 (兵庫教育大学教授)
学校教育臨床連合講座	議長 副議長	渡部 雅之 (滋賀大学教授) 高橋 眞琴 (鳴門教育大学教授)
先端課題実践開発連合講座	議長 副議長	柳沼 良太 (岐阜大学教授) 若松 養亮 (滋賀大学教授)
言語系教育連合講座	議長 副議長	浮田 真弓 (岡山大学教授) 幾田 伸司 (鳴門教育大学教授)
社会系教育連合講座	議長 副議長	町田 哲 (鳴門教育大学教授) 川田 力 (岡山大学教授)
自然系教育連合講座	議長 副議長	秋田 美代 (鳴門教育大学教授) 糸乗 前 (滋賀大学教授)
芸術系教育連合講座	議長 副議長	清田 哲男 (岡山大学教授) 松尾 大介 (上越教育大学教授)
生活・健康系教育連合講座	議長 副議長	筒井 茂喜 (兵庫教育大学教授) 大藪 千穂 (岐阜大学教授)

構成大学の所在地及び位置図



兵庫教育大学

<https://www.hyogo-u.ac.jp/>
〒673-1494
兵庫県加東市下久米 942-1
TEL.0795-44-2068



アクセス

JR「新大阪駅」より	●ハイウェイバス(急行津山駅行/西脇方面行、約65分) — 兵教シャトル便(約5分) — 社バス停 — 徒歩(約25分) — 大学 ※社バス停からタクシーの場合は配車時間を含め約10分
神戸空港より	●ハイウェイバス(急行津山駅行/西脇方面行、約70分) — 滝野社インター — タクシー(約12分) — 大学
JR「三ノ宮駅」より	●ポートライナー(三宮駅行、約18分) ※乗継は次のとおり
JR「姫路駅」より	●ハイウェイバス(山崎方面行、約55分) — 兵教シャトル便(約5分) — 社バス停 — 徒歩(約25分) — 大学 ※社バス停からタクシーの場合は配車時間を含め約10分
JR加古川線「社町駅」より	●バス(社方面行、約70分) — 社営業所(乗り換え) — バス(約12分) — 大学
神姫バス「社営業所」より	●バス(生涯教育センター行、約20分) — 大学 ●徒歩(約3分) — 河高社駅前よりバス(約7分) — 社営業所 — バス(約12分) — 大学 ●バス(約7分) — 社高校前バス停 — 徒歩(3分) — 附属学校(園)



上越教育大学

<https://www.juen.ac.jp/>
〒943-8512
新潟県上越市山屋敷町1番地
TEL.025-522-2411

上越市へのアクセス

鉄道利用の場合

関東方面より	東京駅より上越妙高駅へ JR北陸新幹線を利用(約1時間50分)
関西方面より	大阪駅より上越妙高駅へ JR北陸本線を敦賀駅で乗継、 北陸新幹線を利用(約3時間30分)

高速道路利用の場合

関東方面より	練馬ICより上越高田ICへ 関越自動車道を藤岡ICで乗換、 上信越自動車道を利用(約3時間20分)
関西方面より	米原ICより上越ICへ 北陸自動車道を利用(約4時間)



大学へのアクセス

上越妙高駅より	●えちごトキめき鉄道(妙高はなうまライン)の下り線に乗車(約10分)、 春日山駅下車、徒歩で約25分(2.2km) ●上越妙高駅前よりタクシー乗車(約20分) ●上越妙高駅前より山麓線乗車、教育大学東下車(バス・約20分、平日のみ運行、1日3便)
直江津駅より	●直江津駅前より教育大学線乗車、教育大学下車(バス・約20分) ●直江津駅前より山麓線乗車、教育大学東下車(バス・約15分、平日のみ運行、1日3便) ●直江津駅前よりタクシー乗車(約10分)
高田駅より	●高田駅近くの本町六丁目停留所から教育大学線乗車、教育大学下車(バス・約15分) ●高田駅前よりタクシー乗車(約10分)
I Cより	●上越高田ICより車で約15分 ●上越ICより車で約20分



岐阜大学

<https://www.gifu-u.ac.jp/>
〒501-1193
岐阜県岐阜市柳戸 1-1
TEL.058-293-2203 (教育学部)

最寄り駅からのバス

岐阜大学・病院線 (バス系統 C70)	JR 岐阜駅前 — 名鉄岐阜駅前 — (忠節橋経由) — 岐阜大学 (約40分) 乗車バス停名: JR 岐阜駅 (北口) バスロータリー 9 番のりば 乗車バス停名: 名鉄岐阜駅 5 番のりば
岐阜大学・病院線 (バス系統 C71)	JR 岐阜駅前 — (忠節橋経由) — 岐阜大学 (約35分) (清流ライナーは主要バス停以外には停車しません) 乗車バス停名: JR 岐阜駅 (北口) バスロータリー 9 番のりば
岐阜大学・病院線 (バス系統 C72)	名鉄岐阜駅前 — JR 岐阜駅前 — (忠節橋経由) — 岐阜大学病院 — 岐阜大学 (約30分) (直行バスは主要バス停以外には停車しません) 乗車バス停名: 名鉄岐阜駅 E のりば 乗車バス停名: JR 岐阜駅 (北口) バスロータリー 9 番のりば
岐南町線 (バス系統 N45)	岐南町三宅 — JR 岐阜駅前 — 名鉄岐阜駅前 — (長良橋経由) — 岐阜大学 (約40分) 乗車バス停名: JR 岐阜駅 (北口) バスロータリー 9 番のりば 乗車バス停名: 名鉄岐阜駅 4 番のりば



新幹線を利用する場合

名古屋駅で下車の場合	●在来線 (JR 東海道本線) に乗り換え、岐阜駅まで約 20 分。JR 岐阜駅からは上記を参照してください。 ●名鉄名古屋 (JR 名古屋駅隣り) から名鉄名古屋本線で、名鉄岐阜駅まで約 30 分。名鉄岐阜駅からは上記を参照してください。
岐阜羽島駅で下車の場合	●新羽島駅 (岐阜羽島駅隣り) から名鉄羽島線で、名鉄岐阜駅まで約 30 分。名鉄岐阜駅からは上記を参照してください。 ●岐阜羽島駅からタクシーを利用する場合は、岐阜大学まで約 40 分

飛行機を利用する場合

中部国際空港 (セントレア) より	中部国際空港から、名鉄・空港特急 / ミュースカイ (全車特別車) で、名鉄岐阜駅まで約 57 分。その他、特急 (一部指定) 等も利用可能です。 なお、空港から岐阜市方面への直通バスはありません。
県営名古屋空港 (旧名古屋空港) より	フジドリームエアラインズ (FDA) により、名古屋空港と、青森、いわて花巻、新潟、福岡、熊本、の 5 都市を結んで運航しています (路線については変更されることがあります。ウェブサイトでご確認ください)。 また、空港から岐阜への直通バスはありません。高速バス (所要時間約 30 分、おあい交通) で、名古屋駅を経由し、鉄道利用により岐阜までお越し下さい (ルート・必要時間を予めご確認ください)。 ※中部国際空港の開港に伴い、2005年2月17日名称変更、国内線のみとなりました



滋賀大学

<https://www.shiga-u.ac.jp/>
〒520-0862
滋賀県大津市平津 2-5-1
TEL.077-537-7704 (教育学部)

電車でお越しの場合

JR 琵琶湖線 (東海道本線) 石山駅南口バスターミナル 1 番のりばから、次のバスにご乗車ください。

京阪バス 52・54・55 番系統	約 12 分、「滋賀大西門」下車、徒歩すぐ 52 番系統 …… 「新浜 (南郷中学校経由)」行、または「南郷二丁目東 (野々宮経由)」行 54 番系統 …… 「大石小学校 (南郷中学校経由)」行 55 番系統 …… 「びわこ池田墓園」行
京阪バス 4 番系統	約 10 分、「滋賀大前」下車、徒歩約 7 分 4 番系統 …… 「大石小学校」行
京阪バス 1 番系統	約 10 分、「石山幼稚園前」下車、徒歩約 10 分 1 番系統 …… 「石山団地 (石山寺経由)」行
滋賀大学行 直行バス	石山駅発 午前 8 時 10 分 ※土・日曜、祝日、休業期間は運休

お車で越しの場合

京都・大阪 奈良方面から	名神高速道路「瀬田西 IC」から約 15 分 京滋バイパス「石山 IC」から約 3 分
岐阜・愛知 福井方面から	名神高速道路「瀬田東 IC」から約 10 分

※「瀬田西 IC」「瀬田東 IC」「石山 IC」はすべてパーフィンターチェンジです。
それぞれ以下のアクセス方向への利用はできませんのでご注意ください。

瀬田西 IC	岐阜・愛知・福井方面への入口、岐阜・愛知・福井方面からの出口
瀬田東 IC (名神高速道路)	京都・大阪方面への入口、京都・大阪方面からの出口
瀬田東 IC (京滋バイパスの起点 IC)	岐阜・愛知・福井方面への入口、岐阜・愛知・福井方面からの出口
石山 IC	瀬田東方面への入口、瀬田東方面からの出口





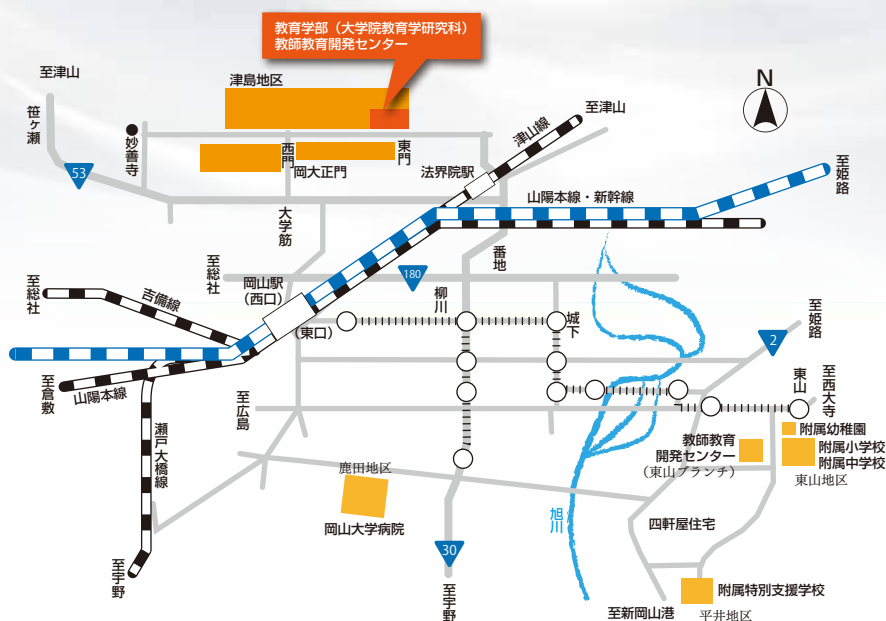
岡山大学

<https://www.okayama-u.ac.jp/>

〒700-8530

岡山県岡山市北区津島中 3 丁目 1-1

TEL.086-251-7585 (教育学部)



アクセス

津島地区
教育学部 (大学院教育学研究科)
教師教育開発センターまで

- JR「岡山駅」駅前より
- JR「岡山駅」西口より
- JR「岡山駅」西口より
- JR 津山線「法界院駅」より

(岡電バス：岡山大学・妙善寺行) — 岡山大学東門下車 — (徒歩) — 津島地区
(岡電バス：駅西口⇄岡山大学・岡山理科大学行) — 岡山大学東門下車 — (徒歩) — 津島地区
※ただし、時間帯により岡山大学東門に停車しません。この場合岡山大学西門下車後、徒歩となります。
(タクシー/約 10 分) — 津島地区
(徒歩) — 津島地区

東山地区
附属幼稚園/附属小学校/附属中学校
教師教育開発センター (東山ランチ)

- JR「岡山駅」駅前より
- JR「岡山駅」駅前より

(市内電車：東山行) — 東山下車 — (徒歩) — 東山地区
(タクシー/約 20 分) — 東山地区

平井地区
附属特別支援学校

- JR「岡山駅」駅前より
- JR「岡山駅」駅前より

(両備バス：新岡山港行) — 四軒屋住宅下車 — (徒歩) — 平井地区
(タクシー / 約 25~30 分) — 平井地区



鳴門教育大学

<https://www.naruto-u.ac.jp/>

〒772-8502

徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748 番地

TEL.088-687-6000

アクセス

徳島阿波おどり
空港から

高速鳴門バス停から

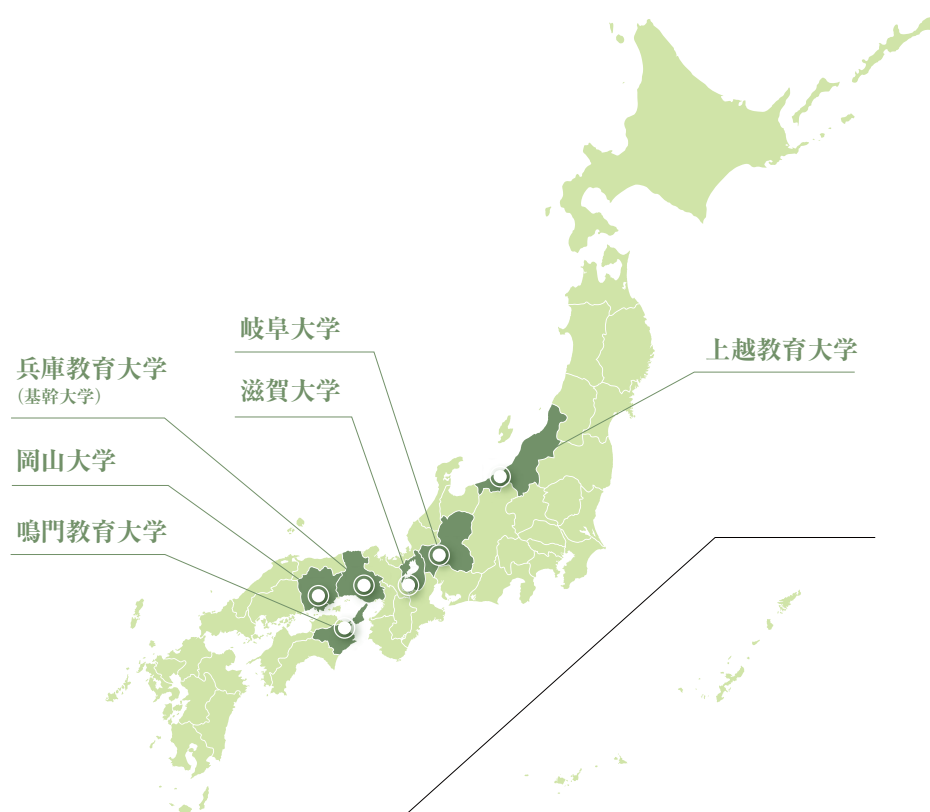
JR 池谷駅から

JR 徳島駅から

鳴門北 IC
鳴門 IC から

- 徳島空港 — 徳島バス「鳴門」行き(約15分) — 鳴門駅 — 徳島バス「鳴門教育大学」行きorタクシー(約10分) — 大学
徳島バス「ウチノ海総合公園」行き (約 25 分)
- 高速鳴門 — 徒歩 (約5分) — 高速鳴門バス停前 — 徳島バス「鳴門教育大学」行きorタクシー(約5分) — 大学
- 池谷駅 — JR 鳴門線 (約15分) — 鳴門駅 — 徳島バス「鳴門教育大学」行きorタクシー(約10分) — 大学
- 徳島駅 — JR 鳴門線 (約40分) — 鳴門駅 — 徳島バス「鳴門教育大学」行きorタクシー(約10分) — 大学
徳島バス「ウチノ海総合公園」行き (約 45 分)
- 鳴門北 IC・鳴門 IC — 車(約10~15分) — 大学





お問い合わせ先



国立大学法人兵庫教育大学 学務課連合大学院チーム

〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1 TEL 0795-44-2068 FAX 0795-44-2269

E-mail : office-rendai-r@ml.hyogo-u.ac.jp